

# 六 供 遺 跡 群 No.6

前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2010.12

前橋市教育委員会



## はじめに

前橋市は関東平野の北西部に位置し、上毛三山のひとつである赤城山を市域の北方に擁し、利根川をはじめとする多くの河川が南流する自然環境に恵まれた県都です。市域には約2万年前の旧石器時代から人々が生活を始め、縄文時代にかけての遺跡も市内のいたるところに存在します。

また、大室古墳群・總社古墳群をはじめとする800余りの古墳が存在するなど、古墳文化も花開きました。その後の律令時代においても、上毛野国を中心地として、山王庵寺・上野国分僧寺・上野国分尼寺などの仏教文化に彩られるとともに、上野国府などの中央集権国家の地方拠点としての施設が造られるなど常に上毛野国を中心として栄えてきました。

戦国時代には、長尾氏・上杉氏・武田氏・北条氏が鎧を削る土地となり、近世に入ると、江戸幕府にとって重要な土地であるとの認識から譜代大名の酒井氏・松平氏が配され、厩橋城に居城しました。

近代に入り、生糸の一大生産地として、前橋産の生糸は「前橋シルク」として海外に輸出されるなど外貨獲得に貢献、日本の近代化推進の一翼を担いました。

六供遺跡群No.6は、市域の南部に位置し、土地区画整理事業に伴う発掘調査によって、古墳時代の集落が発見された遺跡です。この区画整理事業に伴う発掘調査では、過去においても古墳時代の集落が発見され、その周囲には水田も営まれていたことも確認されています。

今後も、発掘調査を実施することにより、本地域における古代の様相も次第に明らかになるものと期待されます。

最後になりましたが、関係機関・各方面のご配慮により、発掘調査が円滑に実施できましたことに感謝申し上げるとともに、記録的な猛暑のなか、発掘調査作業に携わった担当者・作業員のみなさんにも厚くお礼申しあげます。

本報告書が、斯学の発展の一助ともなれば幸いです。

平成22年12月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之



## 例　　言

- 1 本報告書は、前橋都市計画事業六供土地地区画整理事業に伴って実施した六供遺跡群No.6の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市六供町319番2号ほか（A調査区）  
群馬県前橋市六供町13番2号ほか（B調査区）
- 3 調査は、前橋市教育委員会 文化財保護課の指導のもとに委託者 前橋市市区画整理第一課（管理者 高木政夫）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永真弘）が実施した。  
業務監督員 藤坂和延（前橋市教育委員会 文化財保護課）  
調査担当者 権田友寿（スナガ環境測設株式会社）  
調査員 板垣 宏（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成22年8月16日～10月8日
- 5 整理期間 平成22年10月9日～12月25日
- 6 調査面積 670m<sup>2</sup>
- 7 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 8 測量・調査計画…須永、調査助言…金子正人、調査担当…権田、測量調査…板垣・佐々木智恵子・星野陽子・櫻間美千子・瀧澤典雄、安全管理…金子、重機オペレーター…金子・武井知司、作業事務…須永、豊が担当した。
- 9 本書は、業務監督員指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Iについては藤坂和延（前橋市教育委員会 文化財保護課）、その他は権田が担当し、編集・校正…須永・金子・権田、実測図の整理ほか…権田、遺構・遺物のトレース…権田、遺物の整理…佐々木・星野、遺物実測…佐々木・星野、遺物洗浄・注記・接合…須永薰子・佐々木・星野・品川浪江、写真整理・内業事務…須永（豊）・五位野歩美が担当した。
- 10 発掘調査に参加した方々（敬称略）  
長澤俊男 武井知司 菊川勝 菊川毅 中村昌博 吉田宣政  
瀧澤典雄 佐々木智恵子 星野陽子 品川浪江 櫻間美千子（順不同）

## 凡　　例

- 1 遺跡の略称は、22H50である。
- 2 調査委託箇所は六供八幡宮の南東側（A調査区）と前橋・玉村線の前橋水質浄化センター交差点から400m北を東へ入る道路（B調査区）がある。以下、A調査区とB調査区と呼ぶ。
- 3 遺構名の略称は、次のとおりである。

古墳時代住居跡	.....	H	溝跡	.....	W	土坑	.....	D
ピット（柱穴）	.....	P	周溝墓	.....	S	井戸跡	.....	I
実測図中の記号 P ..... 土器 S ..... 石								
- 4 実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺跡	住居跡	.....	1/60	竈	.....	1/30	溝跡	.....	1/60	・	1/100	土坑	.....	1/60
	ピット	.....	1/60	周溝墓	.....	1/60	井戸跡	.....	1/60	全体図	.....	1/200		
遺物	土器	.....	1/3	・	1/4	・	1/5	鉄製品・石製品	1/2	・	1/3			
- 5 本文中の（ ）は推定、〔 〕は現存値を表す。
- 6 採図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 7 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、「新版標準土色帖」（農林省農林水産技術会議事務局監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
- 8 土層注記中の縞より、粘性は、強・中・弱・なしの4段階に区分した。
- 9 赤色塗彩.....[ ]を使用した。
- 10 各遺構の面積は、平面図をもとに座標面積計算より算出した。

# 目 次

はじめに	
例言・凡例	
目次	
挿図・表・写真図版	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針	3
2 調査経過	3
IV 層序	4
V 検出された遺構と遺物	
1 A調査区の遺構と遺物	
(1) 積穴住居跡	4
(2) 溝跡	8
(3) 土坑・ビット	8
(4) 周溝墓	9
(5) 井戸状遺構	9
2 B調査区の遺構と遺物	
(1) 積穴住居跡	10
(2) 溝跡	12
(3) 土坑・ビット	12
(4) 井戸跡	12
VI まとめ	13

## 挿 図

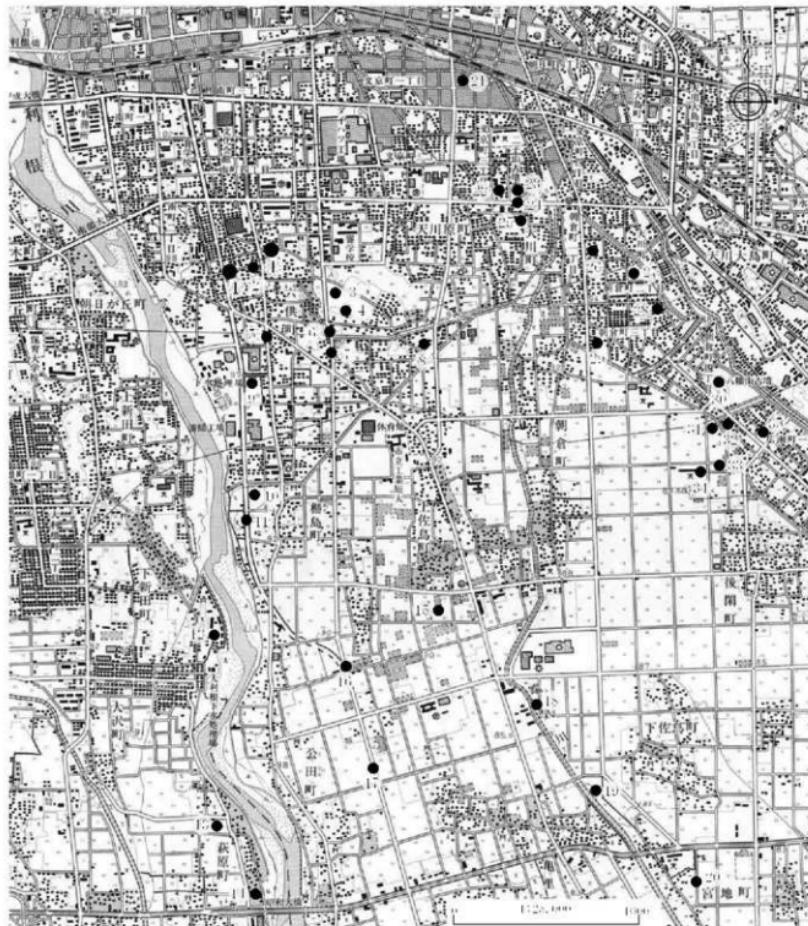
第1図 周辺遺跡図	第15図 D—10～13号土坑、P—1～5号ピット、 I—1号井戸状遺構
第2図 遺跡位置図.....	.....27
第3図 A・B調査区基本土層断面図.....	.....4
第4図 A調査区平面図.....	.....16
第5図 B調査区平面図.....	.....17
第6図 H—1号住居跡.....	.....18
第7図 H—2号住居跡.....	.....19
第8図 H—3号住居跡.....	.....20
第9図 H—4・5号住居跡.....	.....21
第10図 H—6・7号住居跡.....	.....22
第11図 H—8～10号住居跡.....	.....23
第12図 H—11～14号住居跡.....	.....24
第13図 W—1～5号溝跡.....	.....25
第14図 D—1～7・9号土坑.....	.....26
	第16図 C—2・3号周溝墓.....28
	第17図 H—15～17号住居跡.....29
	第18図 H—18・19号住居跡.....30
	第19図 H—20～22号住居跡.....31
	第20図 H—23号住居跡、W—6・7号溝跡.....32
	第21図 D—14～16号土坑、P—6～12号ピット、 I—2号井戸跡.....33
	第22図 H—1～3・6～8号住居跡出土遺物.....34
	第23図 H—10・13・14・17～19号住居跡出土遺物 .....35
	第24図 H—20・22・23号住居跡、D—4・11・ 16号土坑出土遺物.....36

## 表

第1表 土坑計測表.....	13
第2表 ピット計測表.....	13
	第3表 出土遺物観察表.....
	15

## 写 真 図 版

図版 1 A調査区全景 B調査区南側全景 B調査区北側全景 H—1～3号住居跡全景 H—2号住居跡掘り方全景	図版 5 W—7号溝跡全景 D—4・11・16号土坑全景 C—2・3号周溝墓全景 I—1号井戸状遺構全景 I—2号井戸跡全景
図版 2 H—4～8号住居跡全景 H—3・6・7号住居跡掘り方全景	図版 6 H—1～3・6～8・10・13・ 14・17・18号住居跡出土遺物
図版 3 H—9～16号住居跡全景	図版 7 H—18～20・22・23号住居跡、 D—4・11・16号土坑出土遺物
図版 4 H—17～23号住居跡全景 W—1・2号溝跡全景	



- |             |              |             |              |               |
|-------------|--------------|-------------|--------------|---------------|
| 1. 六供遺跡群№ 6 | 2. 六供遺跡群№ 5  | 3. 六供下室木V道路 | 4. 六供下室木II道路 | 5. 六供中京安寺道路   |
| 6. 六供下室木田道路 | 7. 六供東京安寺道路  | 8. 六供遺跡群№ 4 | 9. 中大門道路     | 10. 櫻島川団地道路   |
| 11. 櫻島川団地道路 | 12. 下新田道路    | 13. 萩原团地道路  | 14. 浅間神社古墳   | 15. 上佐島中前遺跡道路 |
| 16. 公田東道路   | 17. 公田池尻道路   | 18. 下佐鳥道路   | 19. 川曲道路     | 20. 宮地中田道路    |
| 21. 不二山古墳   | 22. 県立文教創造道路 | 23. 天川二子山古墳 | 24. 二子山IV道路  | 25. 二子山日道路    |
| 26. 小旦那道路   | 27. 朝倉Ⅱ号墳    | 28. 朝倉 I 号墳 | 29. 鶴守廻り道路   | 30. 八幡山古墳     |
| 31. 後間出地道路  | 32. 岛山道路     | 33. 後間II道路  | 34. 後間道路     | 35. 天神山古墳     |

第1図 周辺遺跡図

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は前橋都市計画事業六供土地地区画整理事業に伴い、平成22年5月17～19日に実施した試掘確認調査の結果を踏まえ、平成22年5月27日付けで前橋市長 高木政夫（区画整理第一課）より、埋蔵文化財発掘調査業務の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営事業として発掘調査を実施しており、直営事業としての実施が困難であるところから、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答した。その後、民間調査組織の導入による発掘調査の実施についての前橋市の合意も得られ、平成22年8月2日付けで、前橋市と民間調査組織であるスナガ環境測設株式会社 代表取締役 須永真弘との間で発掘調査業務委託契約を締結、発掘調査を開始することになった。

なお、遺跡名称「六供遺跡群No.6」（遺跡コード：22H50）の「六供遺跡群」は区画整理事業名を採用、「No.6」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1 遺跡の立地

本遺跡は、前橋市街地の南方にあり、JR 前橋駅から南へ約1.1kmに位置する。西方約700mには利根川が南流し、東方約1.6kmには端気川が南流している。かつて六供町周辺では、この河川を利用し水田が広がっていた。土地区画整理事業が始まり、前橋・玉村線をはじめ主要な幹線道路も整備されつつあり、遺跡地の周辺では公共施設や住宅、店舗が立ち並んでいる。

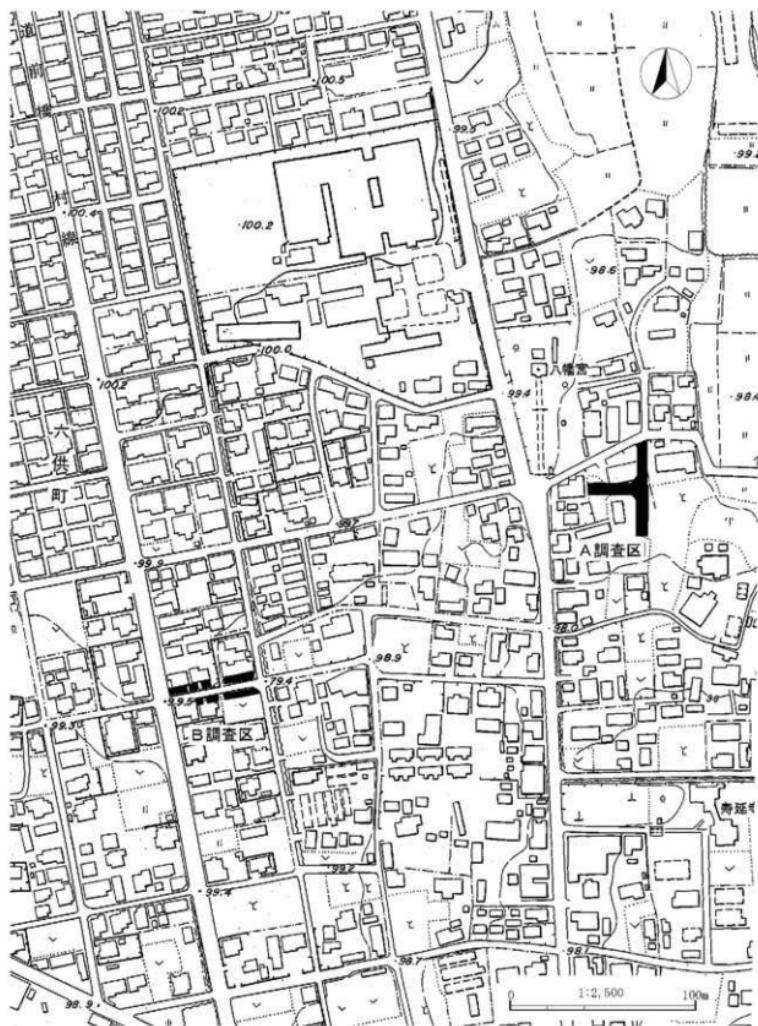
前橋市の地形は、北から東部の赤城山南麓斜面、北西部から南東部へ帯状の広瀬川低地帯、西から南西部の前橋台地の3地域に大別される。当遺跡群は火山泥流堆積物とそれを被覆する水性ローム層から成り立つ洪積台上地、いわゆる前橋台地上にあり、利根川左岸に位置する標高98mの平坦な土地に立地する。

### 2 歴史的環境

本遺跡地周辺の歴史的環境について概観すると、縄文時代以前にかけて人跡は認めがたい地域であったが櫛島川端遺跡において上部ローム層に被覆された泥流丘上で縄文時代草創期後半の土器片（燃系文式土器）の出土があり本地域の歴史を数千年さかのぼる結果をもたらした。また、弥生時代後半の集落も検出され、この周辺の土地利用は既にこの時代から営まれていたことが想定される。古墳時代では、本遺跡周辺に古墳を非常に多く見ることができる。現在、八幡山古墳（4世紀後半、前方後方墳）、天神山古墳（4世紀後半、前方後円墳）、亀塚山古墳（6世紀前半、帆立貝式古墳）、金冠塚古墳（7世紀前半、前方後円墳）、経塚古墳（7世紀、円墳）等に当時の古墳群の片鱗を窺うことができる。また、古墳が造られた背景には有力な豪族の存在が想起され、当地域が古墳時代の初めから発展をしていたことがわかる。住居跡については、後閑団地遺跡、六供下堂木II遺跡、櫛島川端II遺跡などは古墳時代前期、後閑II遺跡、坊山遺跡、川曲遺跡、下新田遺跡などは古墳時代後期の住居跡を検出している。また、小区画水田跡がHr-FA（榛名二ツ岳火山灰：6世紀初頭）の下から検出され、櫛島川端遺跡、公田池尻遺跡、公田東遺跡、六供下堂木II遺跡で確認されている。

奈良・平安時代では、後閑団地遺跡、後閑II遺跡、六供下堂木II遺跡、六供下堂木V遺跡で奈良・平安時代の住居跡や掘立柱建物跡が検出され、条里制に基づく土地利用の痕跡が認められAs-B（浅間山起源：1108年）下の水田跡が中大門遺跡、後閑II遺跡、公田東遺跡、宮地中田遺跡、六供下堂木II遺跡、六供下堂木V遺跡、上佐島中原前遺跡、櫛島川端遺跡、六供遺跡群No.4などで検出されている。また、周辺地区では

現在も条里制を忍ばせる公田町や、市之坪・一町田などの水田耕作を偲ばせる地名や字名が随所に残り、今まで農業生産の基盤地帯として地域経済を支えてきたことが窺える。



第2図 遺跡位置図

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査方針

調査委託箇所は、前橋都市計画事業六供土地区画整理事業の道路予定地で、A調査区が470m<sup>2</sup>、B調査区が200m<sup>2</sup>の合計670m<sup>2</sup>である。2つの調査区の間は距離があるが、混乱を避けるため、遺構番号は通し番号を付番した。

グリッドは公共座標に基づいて4×4mで設定し、南北方向をY軸として北から南へY0、Y1、Y2、…、東西方向をX軸として西から東へX0、X1、X2、…、と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。各調査区の公共座標（日本測地系 第IX系）は次のとおりである。

A調査区 X56・Y0 X=41,384 Y=-67,880

B調査区 X0・Y32 X=41,256 Y=-68,104

水準は公共水準点に基づきA調査区内に1ヶ所(BM.1 H=98.10m)、B調査区に1ヶ所(BM.1 H=98.80m)設置した。

調査方法は、試掘による成果及び業務監督員の指導による土層確認を行い表土掘削を開始し、遺構確認、杭打ち、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

図面作成は、平板・造り方測量を用い、原則として住居跡は1/20、竈は1/10、土坑・溝跡等1/20、全体を1/100の縮尺で作図した。遺物については遺物分布平面図を作成、遺物台帳に記載し、付番処理して取り上げた。また、遺構・遺物等の写真撮影を白黒(35mm)、リバーサルフィルム(35mm)、デジタルカメラで行った。

#### 2 調査経過

平成22年8月10日、調査範囲、残土置場、事務所設置場所及び安全対策等の確認を業務監督員を行い、17日以降より重機による表土掘削を開始できるよう、現地調査事務所設営、機械及び資材を搬入し、草刈り等の作業を行った。18日からA調査区の安全対策として調査区域との境界には単管を立てロープを張った後、重機による表土掘削を開始した。遺構確認面は業務監督員の指導を得て行うとともにジョレン掛精査により遺構確認を行い、19日から移植ゴテ等による住居跡、井戸、溝、ピット・土坑の掘り下げ・遺構精査を開始した。また、グリッド杭・水準点測設を行い、23日から遺構図面作製作業を進めた。10月8日に図面、写真など記録保存を終了し、10日に埋め戻しが完了した。

B調査区は現道を挟んだ道路拡幅部分で、南側と北側に分かれているうえ、水管、ガス管、下水管など地下埋設物があり、近隣住民の駐車スペースともなっており南北同時の調査が行えないため南側から開始することになった。9月13日から安全対策として道路側はネットフェンスやバリケード、宅地側は単管とロープにより行った後、重機により表土掘削を開始し掘削土はA調査区の残土置き場へ運搬した。また、遺構確認面は業務監督員の指導を得て行うとともにジョレン掛精査により遺構確認を行った。21日から移植ゴテ等による住居跡、井戸、溝、ピット・土坑の掘り下げ・遺構精査を開始し、グリッド杭、水準点測設を行い遺構図面作製作業を進めた。10月8日に図面、写真など記録保存を終了し、10日に埋め戻しが完了した。B調査区北側は、11日から重機により表土掘削を開始し掘削土はA調査区の残土置き場へ運搬した。また、ジョレン掛精査により遺構確認を行い、12日から移植ゴテ等による住居跡、溝、ピット・土坑の覆土除去作業を開始し、グリッド杭測設を行い遺構図面作製作業を進めた。10月22日に図面、写真など記録保存を終了し、23日に埋め戻しが完了した。資料及び機材の片付け作業は、26日に完了した。

## IV 層序



第3図 A・B調査区基本土層断面図

## V 検出された遺構と遺物

### 1 A調査区の遺構と遺物

A調査区は、南北に51.5m、東西に26.7m、幅が6 mほどのT字に交わる総延長約78.2mの区画整理による道路部分が調査地である。検出された遺構は、竪穴住居跡14軒、溝跡5条、土坑12基、ピット5基、周溝墓2基、井戸状遺構1基を検出した。

#### (1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 [第6図、図版1]

位置 X62・63、Y 4～6 グリッド 重複 D-7号土坑を住居跡の南壁が切っている。北側と西側は調査区域外のため、形状や規模は現存値をあげる。 形状 圓丸方形。 構造 東西 [4.26] m、南北 [4.52]

m、壁高35～38cm。面積 [6.84] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N—25°—W) 床面 平坦で堅緻。床面標高は97.42mを測る。壁周溝は現存部分で全周する。柱穴 1基検出した。P 1は長径54cm、短径45cm、深さ50cmの楕円形。貯蔵穴 南東隅に検出。長径70cm、短径54cm、深さ45cmの隅丸長方形。竈 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N—77°—E、全長88cm、最大幅59cm、焚口部幅36cm。褐灰色粘土により構築。時期 覆土や出土遺物から、5世紀中頃～後半と考えられる。遺物 完形に近い壺・甕や高坏片が出土している。また、竈内からは高坏が出土している。全体的に出土量が多い。掲載した遺物は、壺2点、甕1点、高坏1点の合計4点。

#### H—2号住居跡〔第7図、図版1〕

位置 X63・64、Y 6～8 グリッド 重複 W—1・2号溝に北と東壁が切られる。また、北東側の壁が搅乱のため不明。形状 隅丸方形。規模 東西4.57m、南北4.63m、壁高18～23cm。面積 21.07m<sup>2</sup> 主軸方向 N—20°—W 床面 平坦で堅緻。床面標高は97.56mを測る。間仕切り溝を検出した。壁周溝は現存部分で全周する。柱穴 6基検出した。P 1は長径45cm、短径37cm、深さ52cmの楕円形。P 2は長径45cm、短径34cm、深さ40cmの楕円形。P 3は長径31cm、短径27cm、深さ21cmの楕円形。P 4は長径46cm、短径32cm、深さ25cmの楕円形。P 5は長径27cm、短径27cm、深さ44cmの円形。P 6は長径45cm、短径39cm、深さ63cmの楕円形。貯蔵穴 住居の南東隅から検出。規模は東西69cm、南北60cm、深さ34cmを測り、隅丸長方形を呈する。竈 東壁のやや南寄りに位置する。主軸方向N—73°—E、全長113cm、最大幅72cm、焚口部幅40cm。上部を削られ検出状況は悪い。褐灰色粘土により構築される。粘土で支脚を構築したと思われる。時期 出土遺物から、5世紀中頃～後半と考えられる。遺物 壺、甕、高坏などの破片が多く、砥石も出土した。掲載した遺物は、壺1点、甕1点、器台1点の合計3点。

#### H—3号住居跡〔第8図、図版1・2〕

位置 X61～63、Y 7・8 グリッド 重複 南西側は調査区域外。形状 隅丸長方形。規模 東西4.28m、南北3.72m、壁高30～38cm。面積 [11.77] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N—18°—W) 床面 平坦で堅緻。床面標高は97.55mを測る。間仕切り溝を検出した。壁周溝は現存部分で全周する。柱穴 4基検出した。P 1は長径18cm、短径14cm、深さ43cmの楕円形。P 2は長径15cm、短径15cm、深さ38cmの円形。P 3は長径25cm、短径20cm、深さ44cmの楕円形。P 4は長径16cm、短径15cm、深さ19cmの円形。貯蔵穴 住居の南東隅から検出。規模は東西80cm、南北60cm、深さ35cmを測り、隅丸長方形を呈する。竈 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N—74°—E、全長109cm、最大幅74cm、焚口部幅41cm。褐灰色粘土により構築され、支脚石を検出。時期 覆土や出土遺物から、5世紀後半と考えられる。遺物 壺、甕、高坏、などの破片が多く、赤色塗彩の土器片も出土し、ベンガラ塊を検出した。また、竈内から壺や甕が出土した。掲載した遺物は、壺2点、甕1点の合計3点。

#### H—4号住居跡〔第9図、図版2〕

位置 X64、Y 11・12 グリッド 重複 東側は調査区域外。形状 隅丸長方形。規模 東西 [2.11] m、南北 [4.47] m、壁高14～18cm。面積 [4.95] m<sup>2</sup> 主軸方向 N—25°—W 床面 平坦であった。床面標高は97.64mを測る。柱穴 1基検出された。P 1は長径50cm、短径40cm、深さ22cmの楕円形。貯蔵穴・竈 調査区内では検出されなかった。時期 主軸方向、覆土や出土遺物から5世紀中頃～後半と考えられる。遺物 壺、甕の破片などを少量出土した。資料として掲載し得る個体はなかった。

#### H-5号住居跡〔第9図、図版2〕

位置 X63、Y12・13グリッド 重複 西側が調査区域外に入る。 形状 残丸方形か。 規模 東西[2.25] m、南北[2.50] m、壁高19~22cm。 面積 [2.63] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-46°-W 床面 平坦であった。床面標高は97.65mを測る。 柱穴 1基検出された。P1は長径35cm、短径34cm、深さ30cmの円形。貯蔵穴 調査区内では検出されなかった。 罂 北東壁に位置する。主軸方向N-44°-E、全長80cm、最大幅と焚口部幅は不明。 時期 時期を決定づけられるものがいため不明。 遺物 覆土から甕、高坏などの破片が少量出土した。資料として掲載し得る個体はなかった。

#### H-6号住居跡〔第10図、図版2〕

位置 X58・59、Y 6・7グリッド 重複 南壁の西側でH-7号住居の壁の上端を僅かに切っている。西壁の北側でC-3号周溝墓を切っている。北側が調査区域外に入る。 形状 残丸方形を呈する。 規模 東西6.36m、南北[4.74] m、壁高25~28cm。 面積 [17.94] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-27°-W 床面 平坦で堅緻。床面標高は97.75mを測る。間仕切り溝を検出した。壁周溝は現存部分で全周する。炭化した木片や焼土を多く検出した。 柱穴 2基検出した。P1は長径50cm、短径37cm、深さ43cmの楕円形。P2は長径[34] cm、短径[10] cm、深さ[25] cm、形状は不明。 貯蔵穴・罠 調査区内では検出されなかった。 時期 覆土や出土遺物から、5世紀中頃～後半と考えられる。 遺物 坏、甕、瓶、高坏などの破片が多く出土している。掲載した遺物は、坏2点、甕1点、高坏1点の合計4点。

#### H-7号住居跡〔第10図、図版2〕

位置 X58・59、Y 7グリッド 重複 北壁の東側でH-6号住居の壁の上端を僅かに切られていた。南西隅、壁際でH-10号住居に切られている。南側が調査区域外に入る。 形状 残丸方形か。 規模 東西[5.90] m、南北[3.26] m、壁高15~18cm。 面積 [9.61] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-30°-W 床面 平坦で堅緻。床面標高は97.48mを測る。間仕切り溝を検出した。壁周溝は現存部分で全周する。 柱穴 1基検出した。P1は長径43cm、短径37cm、深さ45cmの楕円形。 貯蔵穴・罠 調査区内では検出されなかった。 時期 H-6・10号住居の切り合い関係から、5世紀中頃～後半と考えられる。 遺物 坏、甕、高坏、砥石などの破片が多く出土している。掲載した遺物は、鋤先端の鉄製品1点。

#### H-8号住居跡〔第11図、図版2〕

位置 X56・57、Y 6グリッド 重複 北東壁際でC-3号周溝墓を切っている。北側が調査区域外に入る。 形状 残丸方形か。 規模 東西[3.45] m、南北[1.34] m、壁高24~27cm。 面積 [2.31] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-21°-W 床面 平坦で堅緻。床面標高は97.81mを測る。壁周溝は現存部分で全周する。炭化物や焼土を多く検出し、焼失住居の可能性がある。 柱穴・貯蔵穴・罠 調査区内では検出されなかった。 時期 覆土や出土遺物から、5世紀中頃～後半と考えられる。 遺物 坏、高坏、甕などの破片が多く出土している。掲載した遺物は、高坏1点。

#### H-9号住居跡〔第11図、図版3〕

位置 X56、Y 7グリッド 重複 ほとんどが西側の調査区域外に入り、住居の南東隅を僅かに確認した。 形状 残丸方形か。 規模 東西[0.28] m、南北[1.30] m、壁高10cm。 面積 [0.12] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-17°-W 床面 平坦であった。床面標高は97.91mを測る。 柱穴・貯蔵穴・罠 調査区内では検出されなかった。 時期 時期を決定づけられるものがいため不明。 遺物 出土しなかった。

#### H-10号住居跡〔第11図、図版3〕

位置 X56・57、Y 7 グリッド 重複 南東壁際でH-7号住居を切っている。南西壁際でH-11号住居に切られている。東壁でH-13号住居を切っている。北壁でH-14号住居を切っている。南側と西側一部分で調査区域外に入る。 形状 凧丸方形か。 規模 東西4.30m、南北〔3.32〕m、壁高20~23cm。

面積 [10.52] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-23°-W 床面 平坦で堅緻。床面標高は97.90mを測る。間仕切り溝を検出した。壁周溝は北側部分で確認できなかった。 柱穴 3基検出した。P 1は長径27cm、短径27cm、深さ42cmの円形。P 2は長径20cm、短径20cm、深さ60cmの円形。P 3は長径26cm、短径25cm、深さ58cmの円形。貯蔵穴 住居の南東隅から検出。規模は東西〔70〕cm、南北〔47〕cm、深さ30cmを測り、隅丸長方形を呈する。 窓 東壁に位置する。主軸方向N-83°-Eで、全長76cm、最大幅70cm、焚口部幅42cm。褐灰色粘土を構築材とし、支脚に台付甕を使用している。 時期 覆土や出土遺物から、5世紀後半と考えられる。

遺物 坏、甕、高坏、台付甕などの破片が多く出土している。掲載した遺物は、台付甕1点。

#### H-11号住居跡〔第12図、図版3〕

位置 X56、Y 7 グリッド 重複 H-10号住居を切っている。西側と南側の調査区域外にほとんどが入る。 形状 凧丸方形か。 規模 東西〔1.40〕m、南北〔0.18〕m、壁高2cm。 面積 [0.47] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-51°-W 床面 平坦で堅緻。床面標高は98.12mを測る。 柱穴・貯蔵穴・窓 調査区内では検出されなかった。 時期 H-10号住居を切っていることから、5世紀後半以降と考えられる。 遺物 甕の小片を少量出土している。資料として掲載し得る個体はなかった。

#### H-12号住居跡〔第12図、図版3〕

位置 X63、Y 8 グリッド 重複 窓の一部分のみ検出し、住居本体は西側の調査区域外に入る。 面積 [0.15] m<sup>2</sup> 窓 主軸方向 (N-86°-E)、全長〔45〕cm、最大幅〔44〕cm、焚口部幅は不明である。褐灰色粘土を構築材として使用。 時期 時期を決定づけられるものがため不明。 遺物 覆土から甕の破片が少量出土している。資料として掲載し得る個体はなかった。

#### H-13号住居跡〔第12図、図版3〕

位置 X57・58、Y 7 グリッド 重複 西側でH-10に切られて、北東側でC-3を切っている。 形状 凧丸方形か。 規模 東西[1.82]m、南北2.44m、壁高は不明。 面積 [3.82] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-23°-W) 床面 一部分堅緻な面を確認できたが、搅乱が多く確定できなかった。床面標高は(98.02) mを測る。 柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。 炉跡 中央よりやや北寄りに位置し、焼土範囲は長径40cm、短径28cm、深さ3cmの不整形を呈する。 時期 覆土や出土遺物から、5世紀前半と考えられる。 遺物 甕、鉢などの破片を少量出土している。掲載した遺物は、甕1点。

#### H-14号住居跡〔第12図、図版3〕

位置 X56・57、Y 6・7 グリッド 重複 南側でH-10に切られる。 形状 凧丸方形か。 規模 東西2.62m、南北〔2.37〕m、壁高は不明。 面積 [5.50] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-17°-W 床面 平坦であるが、堅緻な面が確認できなかった。床面標高は98.04mを測る。 柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。

炉跡 中央よりやや北寄りに位置し、長径35cm、短径27cm、深さ12cmの楕円形を呈する。 時期 覆土や出土遺物から、5世紀前半～中頃と考えられる。 遺物 坏、甕、椀などが少量出土している。掲載した遺物は、坏2点。

## (2) 溝 跡

### W-1・2号溝〔第13図、図版4〕

X63・64、Y1～7グリッド内に位置する。調査区の北から南に走行し、南端でH-2号住居を切り東へ折れる。また、W-2号溝と重複しており、2号溝が埋まつた後、同じ場所に新たに掘り返したと思われる。W-3・4・5号溝、D-3・13号土坑のそれぞれを切っている。1号溝の全長は24.10m、上幅37～51cm、下幅23～35cm、確認面からの深さ6～16cmを測る。断面形状は皿状である。北側底面の標高は97.43m、南側は97.34mで北から南へ流れる。遺物は、陶器茶碗、内耳鍋、すり鉢、砥石、など多量に出土し、時期は近世と思われる。2号溝の全長は24.10m、上幅60～92cm、下幅38～45cm。確認面からの深さは10～15cmを測る。断面形状は皿状である。北側底面の標高は97.48m、南側は97.38mで、北から南に向かって流れる。遺物は、出土していない。時期は近世と思われる。

### W-3号溝〔第13図、図版1〕

X63・64、Y3・4グリッドに位置する。西から東へ走行する。重複はW-1・2号溝とD-3号土坑に切られ、D-5号溝を切っている。確認された全長は5.03m、上幅44～48cm、下幅25～34cm。確認面からの深さは2～7cmを測る。断面形状は皿状である。西側底面の標高は97.58m、東側は97.50mで、西から東に向かって流れる。遺物は、出土していない。時期は重複関係から中世以降と思われる。

### W-4号溝〔第13図、図版1〕

X63・64、Y4グリッドに位置する。東から西に走行し、W-1・2号溝に切られている。確認された全長は4.20m、上幅39～47cm、下幅19～27cm、確認面からの深さ6～12cmを測る。断面形状は皿状であった。西側底部の標高は97.51m、東側底部は97.47mで、西から東に向かって流れる。遺物は出土していない。時期は重複関係から中世以降と思われる。

### W-5号溝〔第13図、図版1〕

X63、Y2・3グリッドに位置する。北西から東南に走行する。重複は、W-1・2・3号溝とD-3号土坑に切られている。確認された全長は1.70m、上幅95～110cm、下幅80～87cm、確認面からの深さ6～14cmを測る。断面形状は皿状であった。北西側底部の標高は97.47m、南東側底部は97.47mで、検出した全長が短いため流水方向は確認できなかった。遺物は、出土していない。時期は重複関係から中世以降と思われる。

## (3) 土坑・ピット〔第14・15図、図版1・5〕

A調査区内の土坑は12基（D-1～13、D-8は欠番）検出した。そのうち遺物を出土したものはD-1・4・6・7・9・10・11・12号土坑の8基であるが、破片を少量出土しているものばかりであった。D-1・2・5号土坑は、東壁の土層から新しい土坑。D-3号は、重複関係から中世以降と考えられ、D-4・6・7・9・10号は、遺物や覆土から古墳時代中期と考えられる。また、D-11号は、遺物や覆土から古墳時代前期と考えられる。D-12号は、時期不明、D-13号は、重複関係と覆土から中世以降と考えられる。なお、各土坑の計測値は第1表土坑計測表にまとめた。

A調査区内のピットは5基検出した。平面形状は円形、梢円形で上端が34×34cm～52×26cm、深さ10～45cmを測る。遺物の出土ではなく、時期の特定できるものはない。また掘立柱建物跡を組めるものはなかった。なお、各柱穴の計測値は第2表ピット計測表にまとめて報告する。

#### (4) 周溝墓

##### C-1号周溝墓 欠番

調査により風倒木痕と判明し、欠番とした。

##### C-2号周溝墓 [第16図、図版5]

**位置** X63・64、Y 8～10グリッド **重複** H-12号住居と重複していると思われるが、西側が調査区域外に入るため不明。擾乱が多く削平も受けているため遺構の残りが悪い。**形状** 南側では、ほぼ方形になっているが北側と西側は確定できない。**規模** 台部の長径 [4.00] m、短径不明。全形の長径 [5.10] m、短径不明。**主軸方向** (N-60°-E) **周溝** 断面形状は皿状をしており、上幅36～63cm、下幅20～36cm、深さ4～8 cmを測る。**主体部** 後世の削平を受けており検出されなかった。**時期** 覆土から、4世紀ごろと考えられる。**遺物** 出土しなかった。

##### C-3号周溝墓 [第16図、図版5]

**位置** X57・58、Y 6・7グリッド **重複** H-6・8・13号住居とP-4号ビットに切られている。北側が調査区域外に入る。**形状** 円形と推定される。**規模** 台部の半径 [1.78] m、全形の半径 [2.20] m。**周溝** 断面形状はU字形をしており、上幅36～45cm、下幅12～25cm、深さ21～30cmを測る。**主体部** 後世の削平を受けており検出されなかった。**時期** 覆土や重複関係から、4世紀ごろと考えられる。**遺物** 貝の小片を数点出土した。

#### (5) 井戸状遺構

##### I-1号井戸状遺構 [第15図、図版5]

X63・64、Y 0・1グリッドに位置する。北側半分ほどが調査区域外に入り全容は確認できない。人力掘削途中において、形状がロート状の井戸と推定したが、底部は丸く浅いものであった。また、底部から壁にかけて土質が粘性の強いもので、下からの水分が上がって来るようなものではなく、降雨時には雨水が溜まる状態であった。用途については、生活用水か、あるいは烟のための溜め池に利用したのか不明で、W-1号溝とつながりがあると思われる。形状は、確認面で梢円形、規模は上端の長径 [3.50] m、短径 [1.85] m、中段の長径 [2.09] m、短径 [1.16] m、下端の長径 [1.16] m、短径 [0.70] m、確認面からの深さ84cmを測る。時期は近世以降と思われる。遺物は陶器茶碗、すり鉢、内耳鍋、砥石、五輪塔の火輪の部分が覆土から出土した。

## 2 B調査区の遺構と遺物

B調査区は、現道の北と南側の拡幅部分が調査区である。総延長が約80.5m、幅が2.6~3.8mでA区よりもさらに狭く、検出したそれぞれの遺構全体の確認ができなかった。検出された遺構は、竪穴住居跡9軒、溝跡2条、土坑3基、ピット7基、井戸跡1基を検出した。なお、A・B調査区で混乱を避けるため遺構番号は通し番号とした。

### (1) 竪穴住居跡

#### H-15号住居跡 [第17図、図版3]

位置 X 4、Y36グリッド 重複 南と西側が調査区域外に入る。形状や規模は現存値を挙げる。  
形状 段丸方形か。 規模 東西 [0.97] m、南北 [2.50] m、壁高17~20cm。 面積 [3.09] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-41°-W) 床面 平坦であった。床面標高は97.77mを測る。柱穴 1基検出した。P1は長径35cm、短径34cm、深さ24cmの円形。貯蔵穴・竈 調査区内では検出されなかった。時期 時期を決定づけられるものが不明なため不明。遺物 壺の破片が少量出土している。資料として掲載し得る個体はなかった。

#### H-16号住居跡 [第17図、図版3]

位置 X 5・6、Y35・36グリッド 重複 北側が調査区域外に入る。形状や規模は現存値を挙げる。  
形状 段丸方形か。 規模 東西 [5.46] m、南北 [1.08] m、壁高14~22cm。 面積 [5.82] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-13°-W) 床面 平坦で堅緻。床面標高は98.02mを測る。柱穴 2基検出した。P1は長径 [30] cm、短径 [12] cm、深さ52cm、形状は不明。P2は長径 [46] cm、短径 [36] cm、深さ53cmの(楕円形)。貯蔵穴・竈 調査区内では検出されなかった。時期 住居の規模、主軸方向と覆土や出土遺物から5世紀中頃~後半と考えられる。遺物 壺、壺などの破片が少量出土している。資料として掲載し得る個体はなかった。

#### H-17号住居跡 [第17図、図版4]

位置 X 8・9、Y35グリッド 重複 西側のH-18号住居を切り、北側でI-2号井戸と東側をW-6に切られている。南側は調査区域外に入る。形状や規模は現存値を挙げる。形状 段丸方形。 規模 東西4.05m、南北 [2.15] m、壁高22~24cm。 面積 [7.07] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-24°-W 床面 平坦で堅緻。床面標高は97.75mを測る。壁周溝は現存部分で全周する。柱穴 2基検出した。P1は長径20cm、短径17cm、深さ52cmの楕円形。P2は長径27cm、短径27cm、深さ47cmの円形。貯蔵穴・竈 調査区内では検出されなかった。時期 覆土や出土遺物から、5世紀後半と考えられる。遺物 壺、高壙、石の破片が少量出土している。掲載した遺物は、高壙1点。

#### H-18号住居跡 [第18図、図版4]

位置 X 9・10、Y34・35グリッド 重複 西側でH-17号住居に切られ、東側でH-19号住居を切る。南側は調査区域外に入る。形状 段丸長方形を呈す。 規模 東西 [3.20] m、南北 [2.90] m、壁高19~23cm。 面積 [7.75] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-28°-W 床面 平坦で堅緻。床面標高は97.70mを測る。壁周溝は現存部分で全周する。柱穴 2基検出した。P1は長径30cm、短径22cm、深さ60cmの楕円形。P2は西側のH-17号住居の床下から検出し、長径27cm、短径18cm、深さ58cmの楕円形。貯蔵穴 調査区内では検出されなかった。竈 東壁に位置する。主軸方向 N-68°-E、全長114cm、最大幅 [70] cm、焚口部幅36cmで、褐色粘土を構築材として使用している。時期 覆土や出土遺物から、5世紀後半と考えられる。

**遺物** 坯、甕、高坏、壺など多く出土している。掲載した遺物は、甕1点、高坏3点、紡錘車1点の合計5点。

#### H-19号住居跡〔第18図、図版4〕

**位置** X10・11、Y35グリッド **重複** 西側でH-18に切られ、北と南側は調査区域外に入る。形状や規模は推定値を挙げる。**形状** 殴丸方形。**規模** 東西〔3.72〕m、南北〔2.90〕m、壁高15~18cm。**面積** [10.00]m<sup>2</sup> **主軸方向** N-25°-W **床面** 平坦で堅緻。床面標高は97.76mを測る。壁周溝は現存部分で全周する。**柱穴** 3基検出した。P1は長径32cm、短径26cm、深さ44cmの楕円形。P2は長径28cm、短径28cm、深さ42cmの円形。P3は長径36cm、短径31cm、深さ51cmの楕円形。**貯蔵穴** 住居の南東隅から検出。規模は長径95cm、短軸64cm、深さ26cmを測り、殴丸長方形を呈する。**甕** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N-65°-E、全長73cm、最大幅85cm、焚口部幅62cmで、褐灰色粘土を構築材として使用し、支脚に高坏の脚部を使用している。**時期** 覆土や出土遺物から、5世紀中頃~後半と考えられる。**遺物** 坯、甕、高坏、壺など多く出土している。掲載した遺物は、坏2点、高坏1点、壺2点、小型台付壺1点の合計6点。

#### H-20号住居跡〔第19図、図版4〕

**位置** X0・1、Y35グリッド **重複** 南側で調査区域外に入る。**形状** 殌丸方形。**規模** 東西3.67m、南北[1.23]m、壁高5~8cm。**面積** [3.65]m<sup>2</sup> **主軸方向** N-20°-W。**床面** 平坦で堅緻。床面標高は97.92mを測る。**柱穴** 2基検出した。P1は長径30cm、短径29cm、深さ32cmの円形。P2は長径[23]cm、短径[6]cm、深さ32cmで形状は不明。**貯蔵穴・甕** 調査区内では検出されなかった。**時期** 覆土や出土遺物から、5世紀後半と考えられる。**遺物** 高坏、甕、壺が少量出土している。掲載した遺物は、甕1点、壺1点の合計2点。

#### H-21号住居跡〔第19図、図版4〕

**位置** X9、Y33グリッド **重複** 東側でH-22号住居を切っている。昭和30年代まで田を耕作していたために削平された遺構の残りが悪く、わずかに床下の掘り方が残っていた。形状や規模は推定値を挙げる。**形状** 殌丸方形か。**規模** 東西(3.00)m、南北(2.80)m、壁高は不明。**面積** (8.36)m<sup>2</sup> **主軸方向** (N-17°-W) **床面** 不明。床面標高は不明。**柱穴・貯蔵穴** 検出しなかった。**甕** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N-75°-E、全長[70]cm、最大幅[52]cm、焚口部幅[42]cmで、褐灰色粘土を構築材として使用している。**時期** H-22号住居を切っていることから、5世紀後半以降と考えられる。**遺物** 出土しなかった。

#### H-22号住居跡〔第19図、図版4〕

**位置** X9~11、Y33グリッド **重複** 西側でH-21に切られる。南側は調査区域外に入る。形状や規模は現存値を挙げる。**形状** 殌丸方形。**規模** 東西5.30m、南北[2.08]m、壁高17~20cm。**面積** [11.06]m<sup>2</sup> **主軸方向** N-12°-W **床面** 平坦で堅緻。床面標高は97.78mを測る。間仕切り溝を検出した。壁周溝は現存部分で全周する。**柱穴** 2基検出した。P1は長径65cm、短径56cm、深さ46cmの楕円形。P2は長径44cm、短径43cm、深さ35cmの円形。**貯蔵穴・甕** 調査区内では検出されなかった。**時期** 覆土や出土遺物から、5世紀中頃~後半と考えられる。**遺物** 坯、甕、高坏、砥石など多く出土している。掲載した遺物は、坏2点、甕1点、壺2点、楕1点、滑石製模造品1点の合計7点。

#### H-23号住居跡〔第20図、図版4〕

位置 X11、Y32・33グリッド 重複 西側でD-16に切られる。北と東側は調査区域外に入る。  
形状 卵丸方形を呈する。規模 東西[2.94]m、南北[3.50]m、壁高23~24cm。面積 [9.18]m<sup>2</sup> 主軸方向 N-14°-W 床面 平坦で、壁周溝は現存部分で全周する。床面標高は97.77mを測る。柱穴 1基検出した。P1は長径58cm、短径50cm、深さ50cmの楕円形。貯蔵穴・竈 調査区内では検出されなかつた。時期 覆土や出土遺物から、5世紀後半と考えられる。遺物 坏、壺など少量出土している。掲載した遺物は、壺1点。

#### (2) 溝 跡

##### W-6号溝〔第20図、図版1〕

X 8・9、Y33~35グリッドに位置する。B調査区北側から南側へ走行する。規模は全長(11.90)mで上幅53~63cm、下幅30~40cm、深さ21~30cm、溝底の標高は南側で97.74m、北側で97.66mを測り、南から北へ流れた。大型の自然石などいきに埋めた様子が見られる。時期は中世以降と思われる。遺物は、土師器の壺、壺などの小片が数点出土した。資料として掲載し得る個体はなかつた。

##### W-7号溝〔第20図、図版5〕

X 4・5、Y33・34グリッドに位置する。北東から南西に走行し、確認された全長は6.80m、上幅104~107cm、中断29~34cm、下幅20~27cm、確認面からの深さ49~62cmを測る。断面形状は薬研状を呈している。北東側溝底の標高は97.38m、南西側は97.38m。底面は平坦で高低差はない。また、徐々に埋まった様子が見られ、硬く締まった土層が検出している。時期は中世以降と思われる。遺物は、土師器の壺、壺などの小片が数点出土した。資料として掲載し得る個体はなかつた。

#### (3) 土坑・ピット〔第21図、図版1・5〕

B調査区内で土坑は3基(D-14~16)検出した。遺物を出土したのはD-16号土坑で1点壺が出土した。時期は古墳時代後期と考えられる。また、他の土坑については時期不明である。なお、各土坑の計測値は第1表土坑計測表にまとめた。

B調査区内でピットは7基(P-6~12)検出した。遺物を出土したものはP-8・10・12号ピットであつた。時期は古墳時代後期のものであった。その他ピットで時期の特定できるものはない。また、P-9・10・11・12号ピットは掘立柱建物跡を組めうつあったが、P-9・11号ピットは遺物出土がなく、覆土が違うものであったため掘立柱建物跡としなかつた。なお、各ピットの計測値は第2表ピット計測表にまとめて報告する。

#### (4) 井戸跡

##### I-2号井戸〔第21図、図版5〕

X 8・9、Y35グリッドに位置する。南側はH-17号住居を切り、東側でW-6に切られている。北側が調査区域外に入る。形状は、円形で規模は、外周上端の直径2.73m、下端の直径2.42m、確認面からの深さ30cmを測る。本坑上端の直径88cm、下端の直径70cm、確認面からの深さ110cmを測る。また、本井戸は構築過程が想定できるような作りであった。まず、深さは不明であるが、直径2.7mほどの円筒形に地面を掘り、その中央に直径90cmほどの井戸の本坑を掘る。掘り終わったら本坑の穴の縁に沿って石を積み上げ、最初に掘った円筒形の部分を埋め戻し、井戸を完成させたと推定できる。遺物は、土師器の壺、須恵器の蓋・高环の脚部などが出土した。資料として掲載した個体はない。時期は、遺物から7世紀後半と思われる。

第1表 土坑計測表 [ ] は現存値、( ) は推定値を表わす。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形 状	備 考
D-1	X64, Y 1	[160]	[81]	[12]	(円形)	東側が調査区外
D-2	X64, Y 2	[160]	110	[6]	(長方形)	東側が調査区外
D-3	X63, Y 2・3	383	135	85	長方形	W-1・2・3・5と重複
D-4	X64, Y 4	[79]	[71]	106	楕円形	底から甕片を出土
D-5	X64, Y 4・5	[263]	[33]	[13]	不明	東壁際で僅か確認
D-6	X63, Y 5・6	106	50	27	楕円形	
D-7	X63, Y 6	[82]	[38]	10	(円形)	H-1に切られる
D-8	欠番	—	—	—	—	—
D-9	X63, Y 8	86	79	22	不整形	
D-10	X64, Y 8・9	118	72	20	長方形	
D-11	X63, Y 11	153	138	95	楕円形	確認面付近で遺物出土
D-12	X61, Y 7	[198]	134	11	長方形	南側が調査区外
D-13	X64, Y 6	[76]	62	14	長方形	W-1・2に切られる
D-14	X 7, Y 35	[77]	[35]	6	(楕円形)	北と西が調査区外
D-15	X 8, Y 35	116	88	10	楕円形	
D-16	X11, Y 32	72	63	104	楕円形	

第2表 ピット計測表 [ ] は現存値、( ) は推定値を表わす。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形 状	備 考
P-1	X64, Y 3	[52]	[26]	[8]	(楕円形)	東側が調査区外
P-2	X64, Y 8	[52]	[20]	[11]	不明	東側が調査区外
P-3	X64, Y 8	42	35	10	楕円形	
P-4	X57, Y 6	34	34	45	円形	C-3号周溝墓を切る
P-5	X57, Y 6	38	[11]	12	(楕円形)	北側が調査区外
P-6	X 4, Y 36	35	27	6	楕円形	
P-7	X 4, Y 36	80	31	15	不整形	
P-8	X 4, Y 36	[91]	50	11	楕円形	南側が調査区外
P-9	X 8, Y 33	32	31	37	円形	
P-10	X 8, Y 33	35	35	34	円形	
P-11	X 8, Y 33	35	35	30	円形	
P-12	X 8, Y 33	36	30	29	楕円形	

## VI まとめ

本遺跡の調査により、A・B調査区から竪穴住居跡23軒、周溝墓2基、溝跡7条、土坑15基、ピット12基、井戸跡1基、井戸状遺構1基が検出された。

古墳時代の土器には時期別にそれぞれ特徴を持った土器が出土する。古墳時代前期では石田川式土器、中期は和泉式土器、後期では鬼高式土器と称される。本遺跡では、前期の石田川式土器は、D-11号土坑で刷毛目を施された甕を出土し、他の遺構では小片が数点のみであった。中期の和泉式土器は、多くの住居跡から出土しており、後期の鬼高式土器の特徴を持ったものはどの遺構からも出土していない。住居跡において古墳時代中期（5世紀代）は、炉から竈に移行する過渡期にあたる。竈は朝鮮半島から5世紀前半に伝わったと考えられ、群馬では5世紀中頃から完成した形の竈が普及していったとされている。炉を活用していた前期の石田川式土器の煮炊き用に使用した甕には、底部に高さ5cmほどの脚を持った台付き甕があり、これは炉に甕を置いた時の安定性と薪を燃焼した時の熱効率を高めるためのものと考えられ、炉から竈に移行した後の和泉式土器には見られなくなる。

出土した遺物では、A調査区のH-3号住居跡から赤色塗彩が施された壙と少量のベンガラの塊が出土し、B調査区のH-19号住居跡からも赤色塗彩が施された壙が出土した。集落内で祭祀行為が行われていた可能性も考えられる。また、H-7号住居跡からは、鉄板の両端を折り曲げた幅10cmほどのきわめて簡単な形態の鉄製鋒先が出土している。当時、農耕具類の鋤・鍬など農作業に使用する道具類は、木製のものを主に使用していたが、この鉄製品を先端に取り付けて使用しているものもあったと思われる。鉄製の刃先を使用することにより、農作業のみならず、開墾、土木工事などの能率を上げることができた。しかし、まだ鉄製品は集落全体に広まっておらず、族長層の手に集中していたと考えられることから、大型のH-7号住居跡は集落の長の住居と思われる。

住居跡の特徴として一辺が6m以上を大型住居とし、4m以上6m未満を中型住居、4m未満を小型住居とした場合、調査区域の幅が狭いため住居全体を検出できないものもあったが、おおむね大型住居がH-6・7号住居跡の2軒、中型がH-1～4・10・16～19・22・23号住居跡の11軒、小型が13・14・20・21の4軒、不明が6軒であった。また、A調査区のH-2・3・6・7・10号住居跡、B調査区のH-22号住居跡から、柱穴と注穴を結んだラインの外側に幅10～33cm、深さ5～21cmの溝条の掘り込みを検出した。この溝は、間仕切り溝と呼ばれるH-10号住居以外は掘り方調査を実施して確認した。溝の使用目的は、仕切り壁を埋め込む溝。あるいは、張り床の基礎の丸太材を埋め込む溝か、寝床の範囲を区画する丸太材を埋め込むための溝などのいろいろな説があるが定説はない。今回の調査においては、大型の住居のみでなく中型の住居にも間仕切り溝が確認されていることは、この溝の性格を考えるうえで貴重な資料になると思われる。

本遺跡東方には古墳時代前期を代表する八幡山古墳や前橋天神山古墳などの大型古墳が所在し、南方500mほどの六供中京安寺遺跡では石田川期の住居跡と古墳や周溝墓が、六供東京安寺遺跡では石田川期の住居跡が報告されている。しかし、本遺跡で確認された住居跡と同じ5世紀代の大規模な古墳は確認されておらず、住居跡もあまり確認されていない。広瀬・朝倉古墳群を擁する本地域は古墳時代前期において主要地域であったと考えられる。また、荒砥地区においては和泉期の遺構が多く検出され、荒砥北三木堂遺跡Iでは5世紀代の住居跡、遺物が報告され、近くに全長71mの規模を持つ前方後円墳である今井神社古墳（5世紀後半）が築造されている。これらの大型古墳は集団を治めた首長を葬ったものと考えられ、周溝墓は単位集落の長を葬ったものと想像できる。本遺跡ではA調査区から4世紀代のC-2号、C-3号周溝墓が検出された。どちらも著しく削平を受け主体部ではなく、C-2号周溝墓はH-12号住居跡に掘り込まれ、C-3号周溝墓はH-6・8・13号住居跡などの5世紀代の住居跡に掘り込まれている。石田川式土器文化から和泉式土器文化へ時代が移行するにあたり、土地利用の形態が墓域から居住域へと変化してきていることが観察できる。

今回の調査で、古墳時代中期の住居跡を検出したことは六供町周辺の和泉期における集落の様子を解明するうえで貴重な資料が得られたと思われる。

## 参考文献

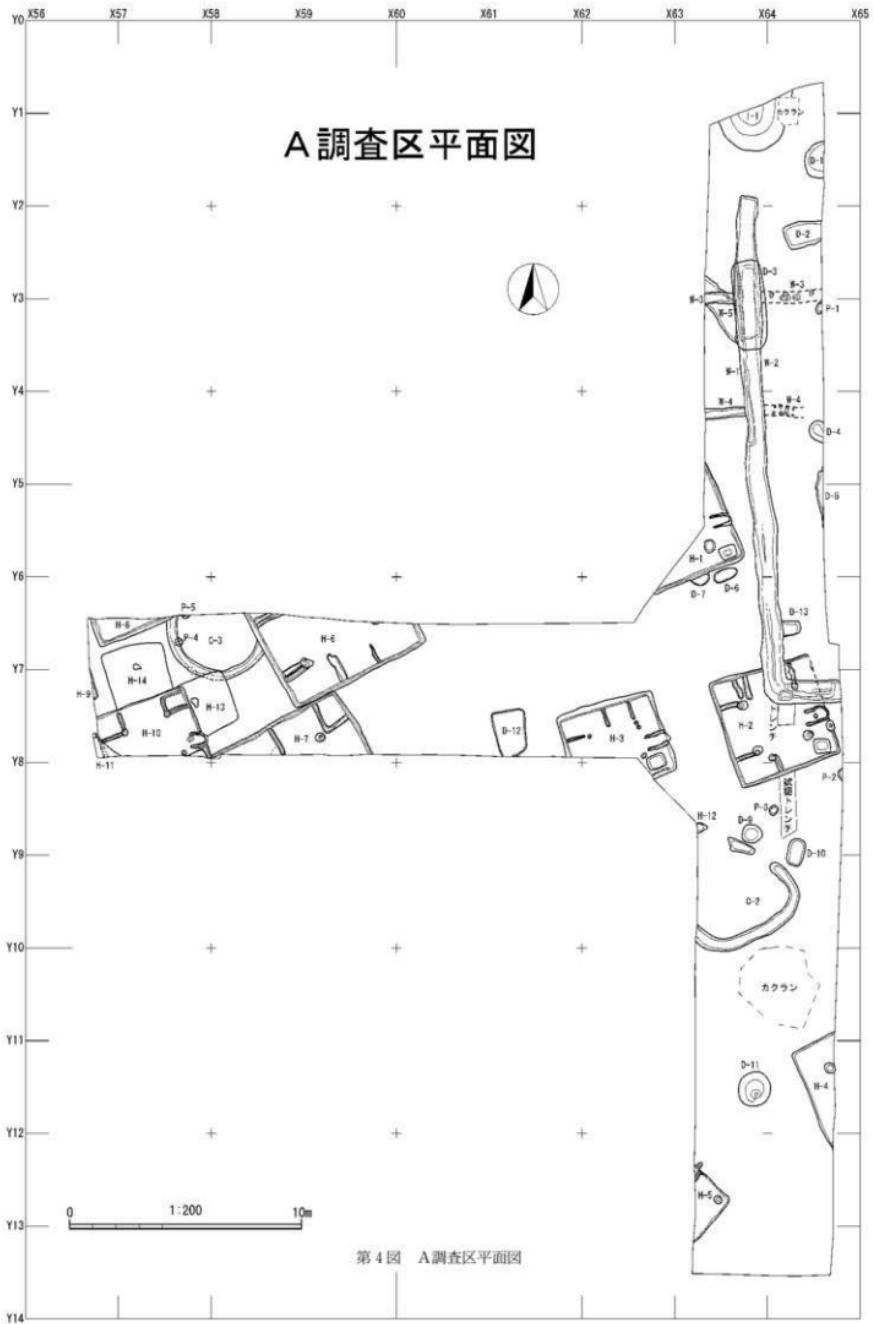
前橋市	前橋市史編さん委員会	1971	「前橋市史 第1巻」
群馬県	群馬県史編纂室	1988	「群馬県史 通史編Ⅰ 原始古代Ⅰ」
群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団		1991	「荒砥北三木堂遺跡Ⅰ」
群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団		1998	「下芝五反田遺跡 一古墳時代編Ⅰ」
群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団		2005	「群馬の遺跡5 古墳時代II」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団		1988	「柳久保遺跡群Ⅷ」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団		1997	「六供下堂木II遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団		1998	「六供中京安寺遺跡・六供下堂木III遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団		1999	「六供東京安寺遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団		2000	「鶴光路桜木橋II遺跡・徳丸高塚III遺跡」

第3表 出土遺物観察表

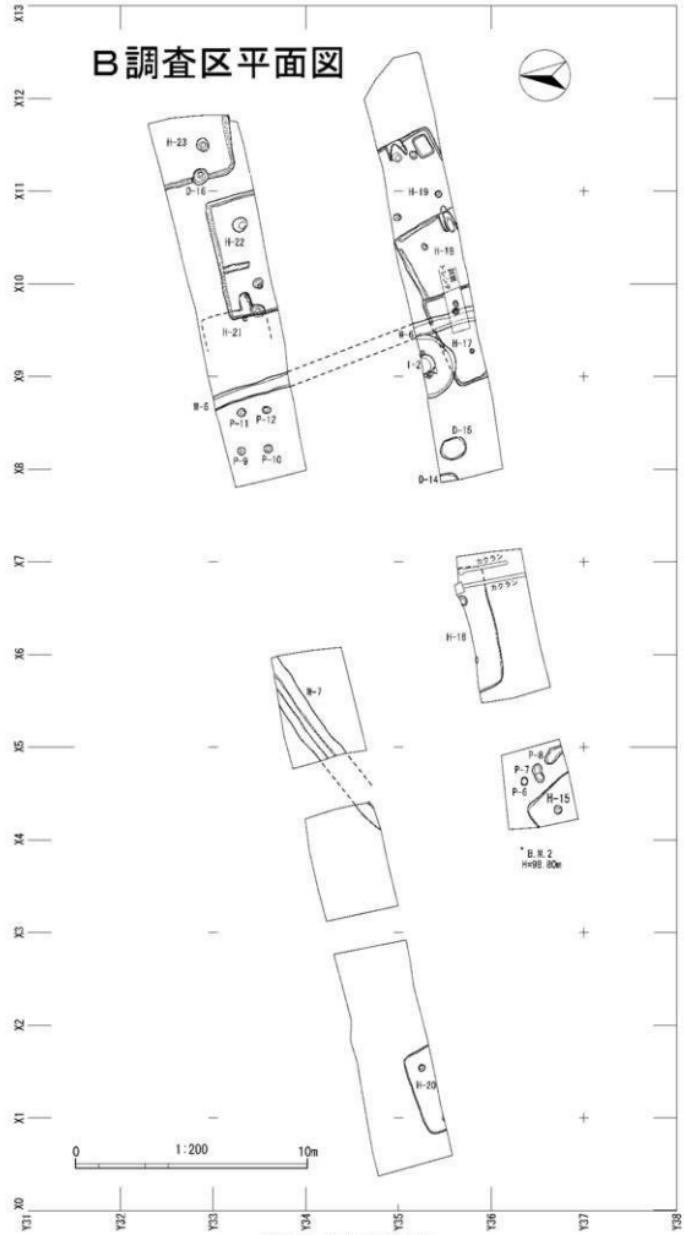
番号	出土位置	器形	大きさ(cm) 口径 高さ 底土②焼成③色鉛心残存	成・整・形・方法		備考
				外 面	内 面	
1 H-1 №17	坏	15.2 5.3	①細粒②焼化③明赤褐色④3/4	口横擴で。体～底尻削り。	口横擴で。体～底尻削り。	
2 H-1 №18	坏	14.0 5.2	①細粒②焼化③褐・黄褐色④5/5	口～体尻磨き。底尻削り。	口～底尻磨き。	
3 H-1 №13	要	20.8 27.5	①細粒②焼化③青緑色④2形	口横擴で。胴～底尻削り。	口横擴で。胴～底尻削り。	外面被熱剝離。
4 H-1 カ№11	高坏	17.0 8.7	①細粒②焼化③褐色④4/4	环口～底尻削れ。脚尻削り。	环口～底尻削れ。脚尻削り。	
5 H-2 №10	坏	12.0 7.0	①細粒②焼化③明赤褐色④1/2	口横擴で。底尻磨き。底尻削り。	口横擴で。底～底尻削り。	
6 H-2 №11+12	要	18.6 18.2	①中粒②焼化③褐・黄褐色④3/4	口横擴で。胴～底尻削り。	口横擴で。胴～底尻削り。	
7 H-2 P6一括	器台	— 4.3	①細粒②焼化③褐色④1/4(棒のみ)	脚尻削り。		直径7.4、穿孔1.2
8 H-3 カ№6+9	坏	12.1 4.0	①細粒②焼化③褐色④完形	口横擴で。体～底尻削り。	口横擴で。体～底尻磨き。	
9 H-3 №1	坏	12.8 5.3	①細粒②焼化③赤褐色④1/8	口横擴で。体尻削り。	口～体横擴で。	赤色塗彩。
10 H-3 カ№2+4	要	15.4 15.4	①中粒②焼化③褐・黄褐色④1/3	口横擴で。脚～底尻削り。底削り。	口横擴で。脚～底尻削り。	
11 H-6 №13+15	坏	6.4 6.3	①細粒②焼化③褐色④3/4	口横擴で。底～底尻削り。	口～底尻磨き。	
12 H-6 №6	坏	13.0 7.9	①細粒②焼化③褐色④3/4	口横擴で。底尻磨き。底尻削り。	口横擴で。体～底尻磨き。	
13 H-6 №7	要	14.0 6.6	①中粒②焼化③褐色④2/2	口横擴で。底尻削り。底削り。	口横擴で。体～底尻磨き。	
14 H-6 №8+11+12	高坏	29.6 7.4	①細粒②焼化③明赤褐色④1/2	环口～体横擴で。底尻削り。	环口～底尻削れ。	
15 H-7 肩№1	鋸刃	— 10.5	厚2.0、重97.5g			
16 H-8 №2	高坏	29.0 5.8	①細粒②焼化③明赤褐色④1/5	环口～底尻削れ。	环口～体尻磨き。底尻削り。	脚部欠損
17 H-10 カ№1	台付壺	13.2 14.2	①中粒②焼化③黄褐色④2形	口横擴で。胴～底尻削り。	口横擴で。脚～底尻磨き。	
18 H-13 一括	要	17.5 28.0	①中粒②焼化③褐色④3/5	口横擴で。脚～底尻削り。擦す。	口横擴で。脚から底尻削り。	
19 H-14 №3	坏	12.8 5.5	①細粒②焼化③明赤褐色④2/3	口横擴で。脚～底尻削り。	口～体底磨き。底削れ。	
20 H-14 №1	坏	11.8 6.1	①細粒②焼化③褐色④3/3	口横擴で。底尻削り。	口横擴で。底尻磨き。	底部欠損
21 H-17 一括	高坏	— 9.0	①細粒②焼化③褐・黄褐色④1/8	底磨き。	底削り。	脚の一部のみ
22 H-18 №9	要	19.2 22.7	①細粒②焼化③褐・黄褐色④3/9/10	口横擴で。脚～底尻削り。	口横擴で。脚～底尻削り。	
23 H-18 №5	高坏	24.7 21.1	①細粒②焼化③明赤褐色④9/10	环口～体底磨き。脚底磨き。	环口～底尻磨き。脚底磨。	
24 H-18 №12	高坏	20.3 15.6	①細粒②焼化③明褐色④9/10	环口～体底磨き。脚底磨。	环口～底尻磨き。脚底磨。	外表面被熱剝離あり。
25 H-18 カ№4	高坏	18.6 16.1	①細粒②焼化③褐色④9/10	环口～体底磨き。脚底磨。	环口～底尻磨き。脚底磨。	
26 H-18 №13	鋸歯車	—	直径 上端3.2cm、下端4.7cm、厚さ1.2cm、重量39.0g。穿孔6.5mm 滑石製			
27 H-19 №1	坏	14.3 4.2	①細粒②焼化③褐・黄褐色④1/2	口横擴で。脚～底尻削り。	口横擴で。脚～底尻削り。	内外面赤色塗彩。
28 H-19 №13	坏	12.2 5.3	①中粒②焼化③褐色④完形	口横擴で。体～底尻削り。	口横擴で。体～底尻削り。	
29 H-19 №1	要	12.2 16.1	①細粒②焼化③褐色④5/5	口底磨き。脚～底尻削り。擦す。	口底磨き。脚～底尻削り。	
30 H-19 肩№1	要	12.4 17.8	①細粒②焼化③褐色④10/10	口底磨き。脚～底尻削り。擦す。	口底磨き。脚～底尻削り。	
31 H-19 №10	台付壺	— 5.9	①細粒②焼化③浅黃褐色④1/3	底磨き。	擦す。	口縁・脚部欠損
32 H-2 カ№4+5	高坏	29.2 7.3	①細粒②焼化③褐色④1/2	环口横擴で。体～底尻磨き。	环口横擴で。体～底尻磨き。	脚部欠損
33 H-20 №1	要	15.1 15.1	①細粒②焼化③褐色④1/4	脚底削り。	脚底削り。	
34 H-20 №2	要	— 13.4	①細粒②焼化③明黄色④3/4	口横擴で。脚底削り。擦す。	口横擴で。脚底削り。擦す。	
35 H-22 №3	坏	13.6 5.6	①細粒②焼化③褐・橙褐色④完形	口横擴で。体～底尻削り。	口横擴で。体～底尻削り。	
36 H-22 №4	坏	13.8 5.1	①細粒②焼化③明褐色④完形	口横擴で。脚～底尻削り。	口横擴で。脚～底尻削り。	
37 H-22 №6	要	— 5.6	①細粒②焼化③褐色④5/5	口底磨き。脚～底尻削り。擦す。	口底磨き。脚～底尻削り。擦す。	口縁部欠損
38 H-22 №13	要	20.8 8.1	①細粒②焼化③浅黃褐色④1/8	口底磨き。脚底磨。	口底磨き。脚底磨。	
39 H-22 P1№3	要	15.4 15.0	①細粒②焼化③明褐色④1/4	口横擴で。脚底削り。	口横擴で。脚底削り。	
40 H-22 P1№2	要	21.4 26.8	①細粒②焼化③褐色④1/2	口横擴で。脚～底尻削り。	口横擴で。脚～底尻削り。	
41 H-22 S-2	滑石模様品	直径3.4cm、厚さ3.5mm、重量8.8g。穿孔3.2mmあり 直径1.5mm×2ヶ所貫通				一部欠損
42 H-23 №1	坏	11.2 4.0	①細粒②焼化③褐・橙褐色④1/2	口横擴で。体～底尻削り。	口横擴で。体～底尻削り。	
43 D-4 一括	要	19.4 27.0	①細粒②焼化③褐色④5/5	口横擴で。脚～底尻削り。	口横擴で。脚底削り。	底部欠損
44 D-11 一括	要	16.0 8.7	①細粒②焼化③褐色④1/8	口横擴で。刷毛目。	口横擴で。刷毛目。	
45 D-16 一括	坏	13.2 3.5	①細粒②焼化③褐色④2/8	口横擴で。脚～底尻削り。	口横擴で。脚～底尻削り。	

片土は、細粒 (0.0mm以下)、中粒 (0.1~1.9mm以下)、粗粒 (2.0mm以上)とした。  
色調は土器外面で観察し、色名は「新日本標準土色」(林木本色等農林水産大臣技術会議事務局監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修 2000)によった。

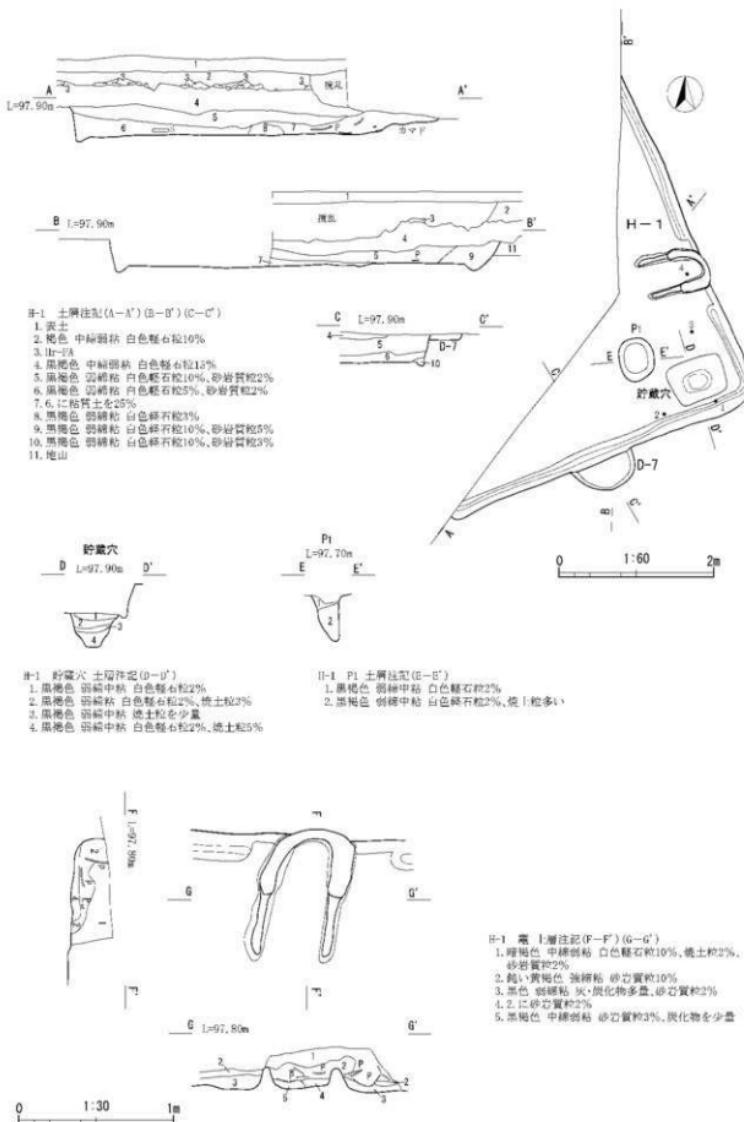
大きさの単位はcmであり、違うものについては単位を記した。



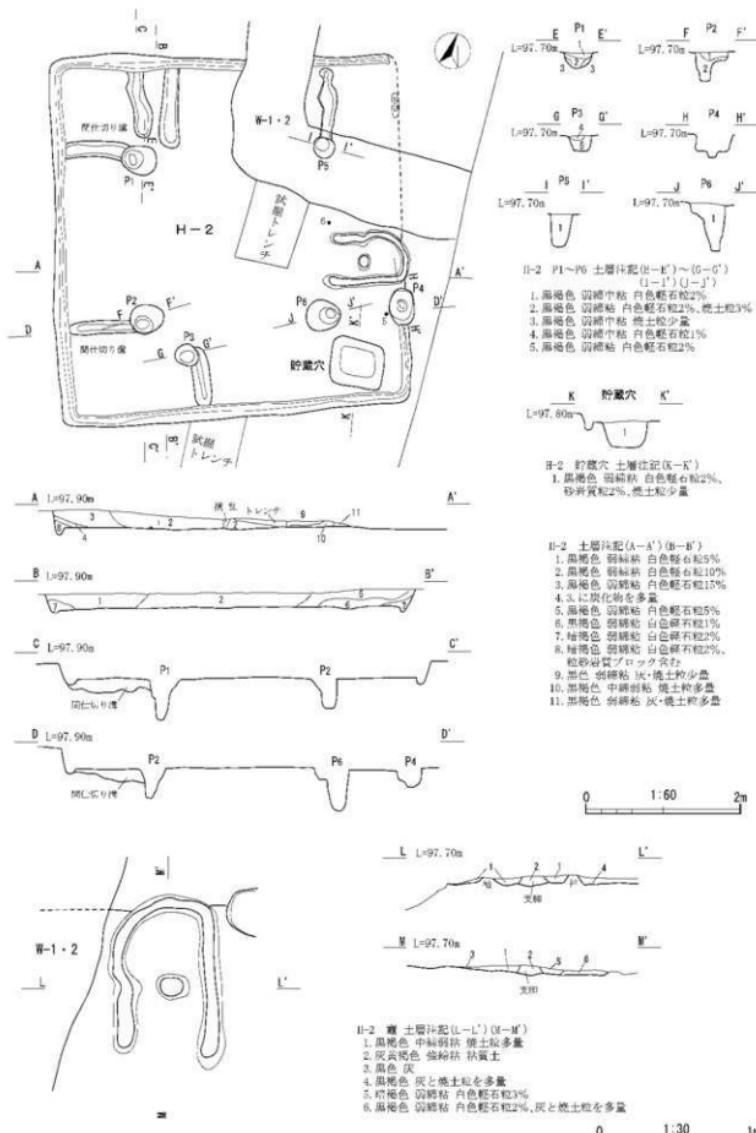
第4図 A調査区平面図



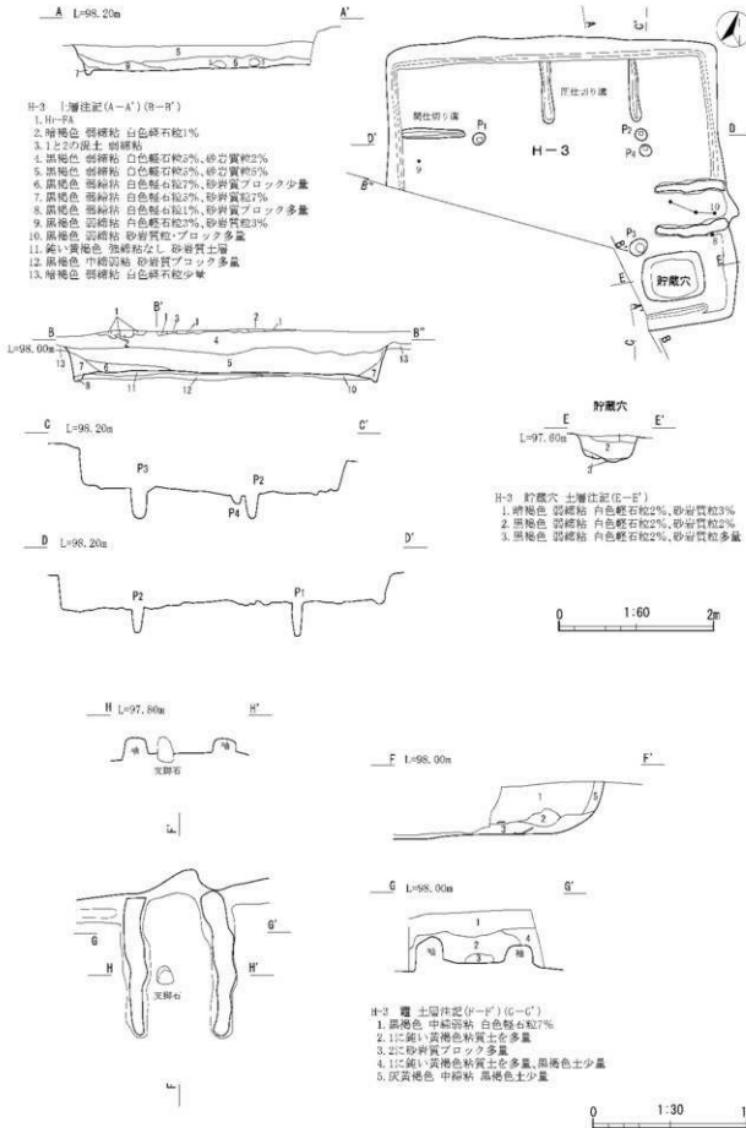
第5図 B調査区平面図



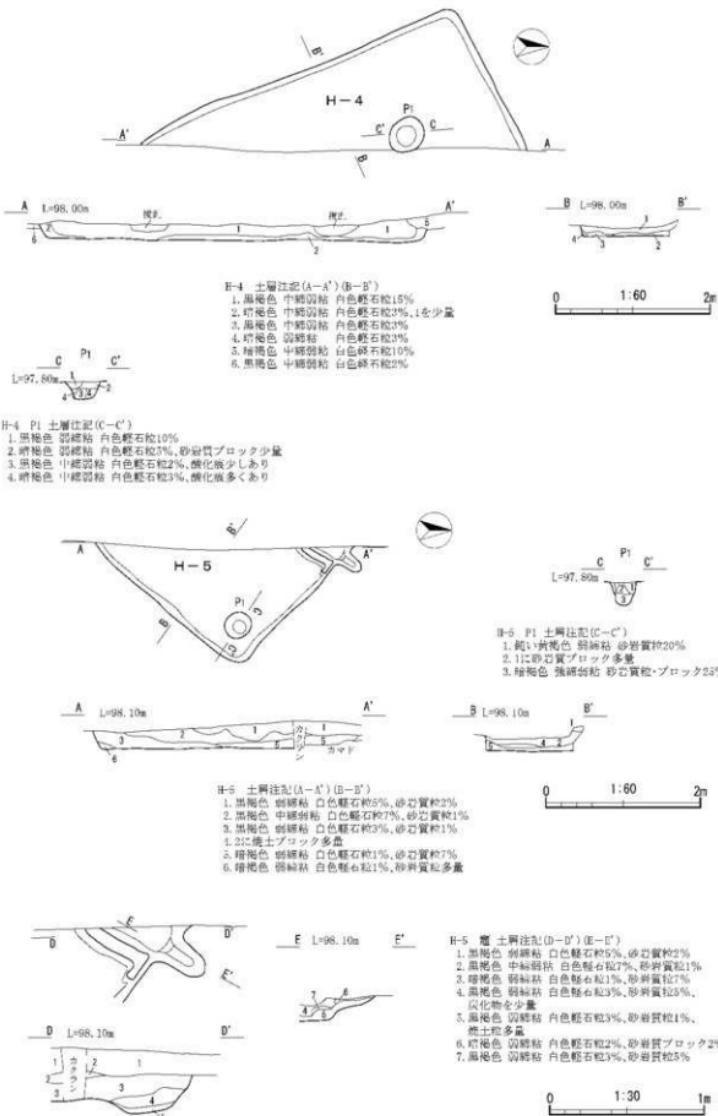
第6図 H-1号住居跡



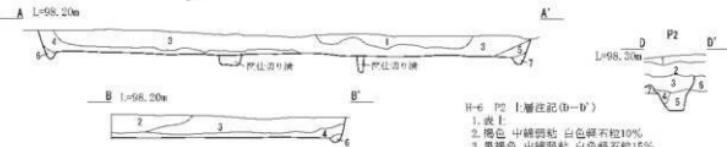
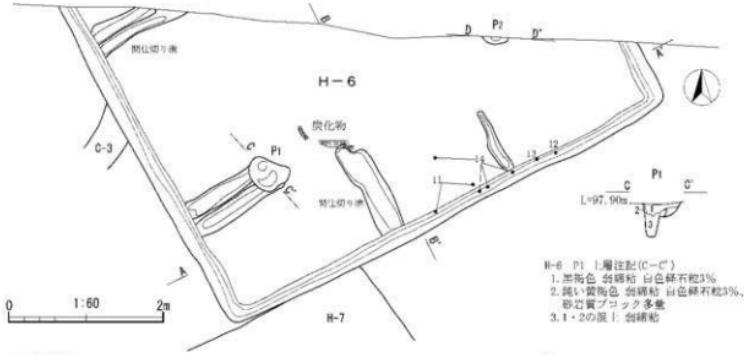
第7図 H-2号住居跡



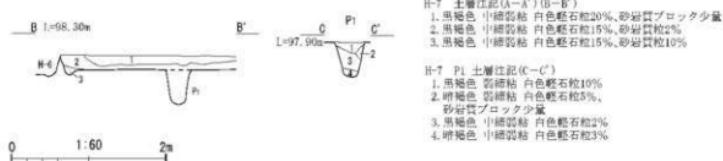
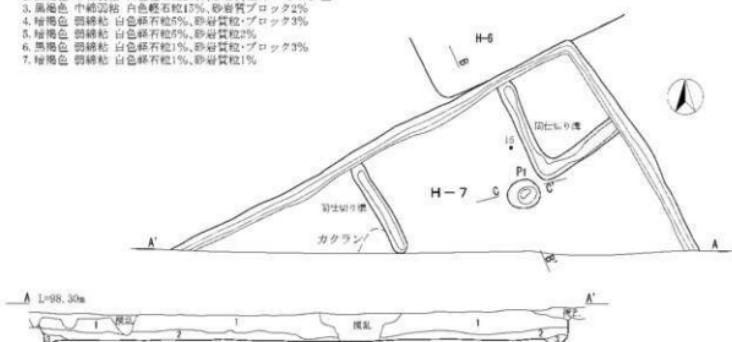
第8図 H-3号住居跡



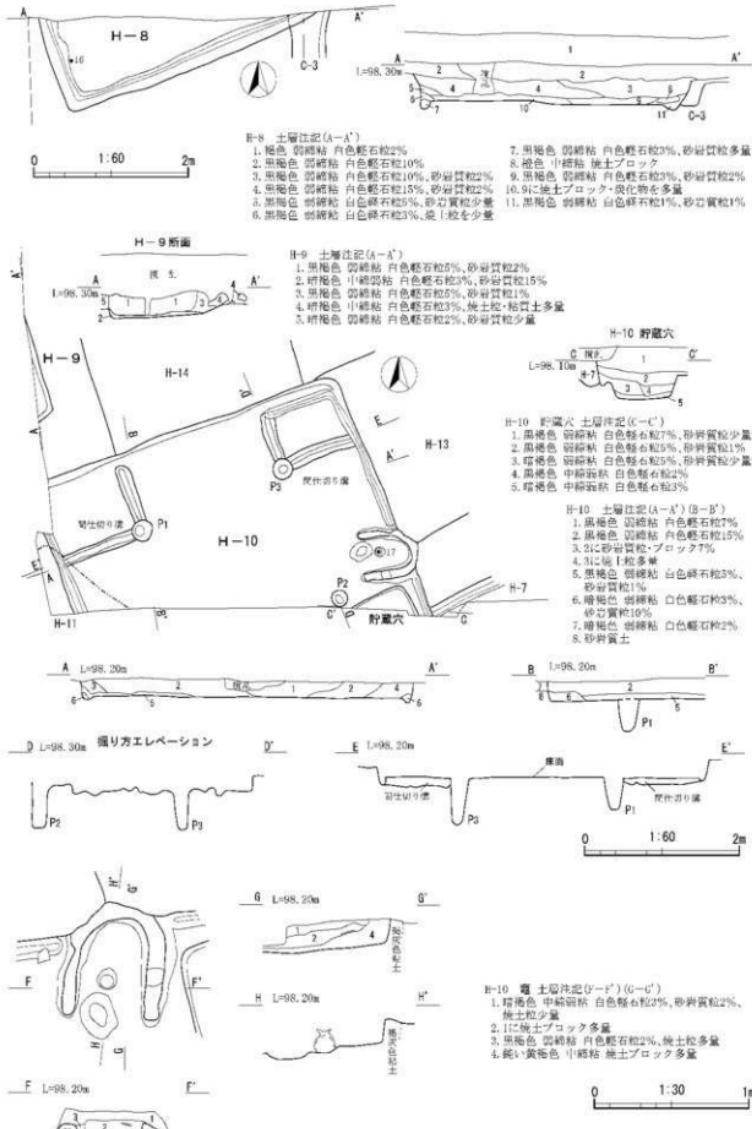
第9図 H-4・5号住居跡



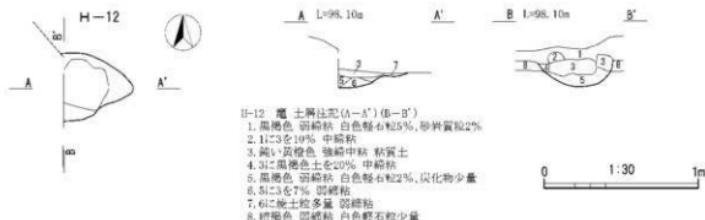
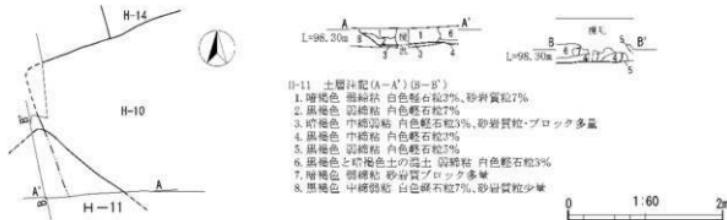
- H-6 土層注記(A-A')(B-B')
1. 黒褐色 中縞帶粘 白色輕石粒7%、砂岩質5%
  2. 黒褐色 中縞帶粘 白色輕石粒20%、砂岩質4%、ブロック少量
  3. 黒褐色 中縞帶粘 白色輕石粒17%、砂岩質ブロック2%
  4. 細褐色 銀縞粘 白色輕石粒5%、砂岩質4%、ブロック3%
  5. 細褐色 銀縞粘 白色輕石粒5%、砂岩質2%
  6. 黑褐色 銀縞粘 白色輕石粒1%、砂岩質2%、ブロック3%
  7. 細褐色 銀縞粘 白色輕石粒1%、砂岩質1%



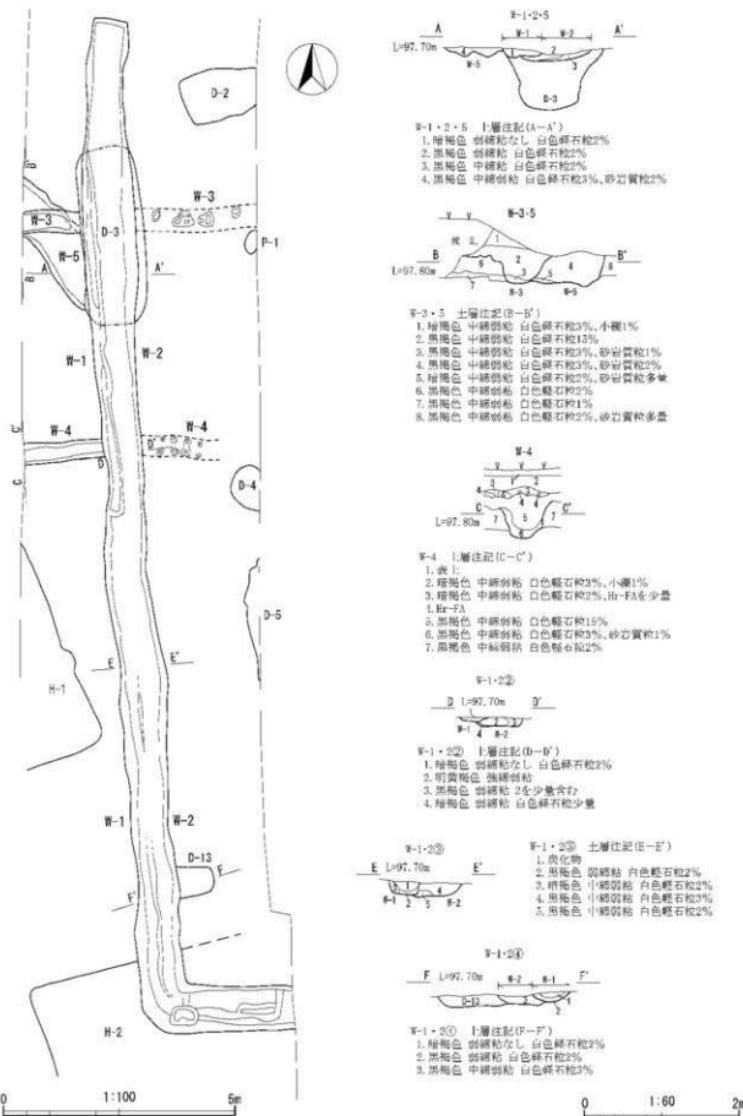
第10図 H-6・7号住居跡



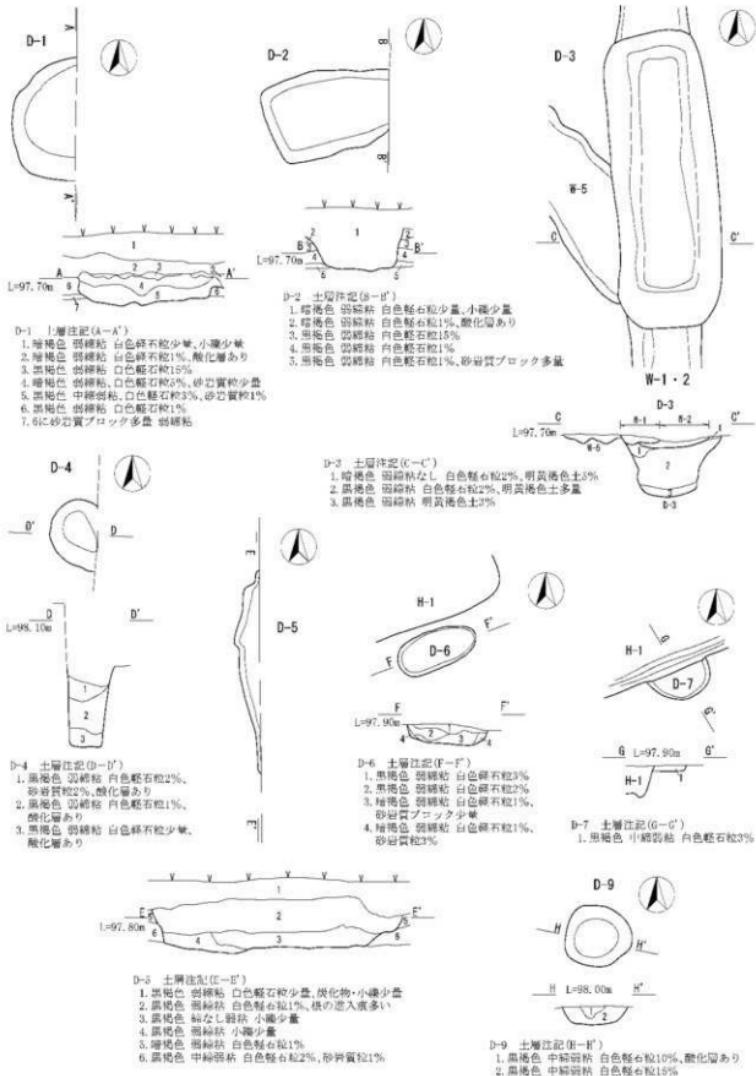
第11図 H-8～10号住居跡



第12図 H-11~14号住跡

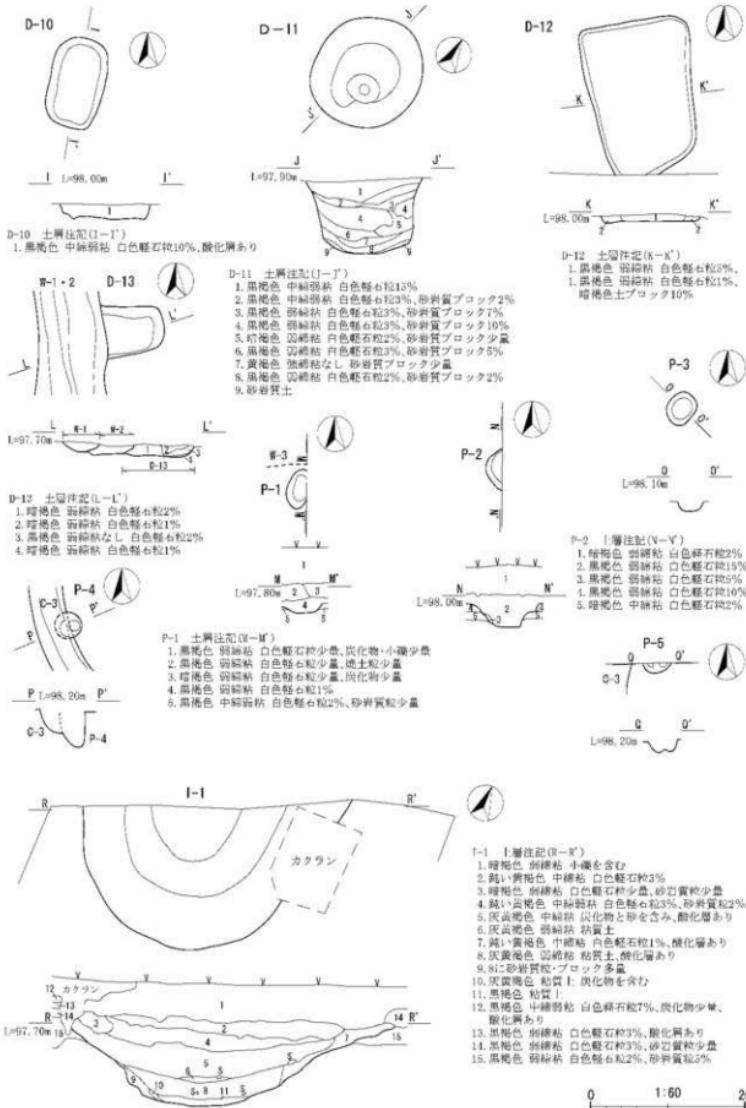


第13図 W-1～5号溝跡

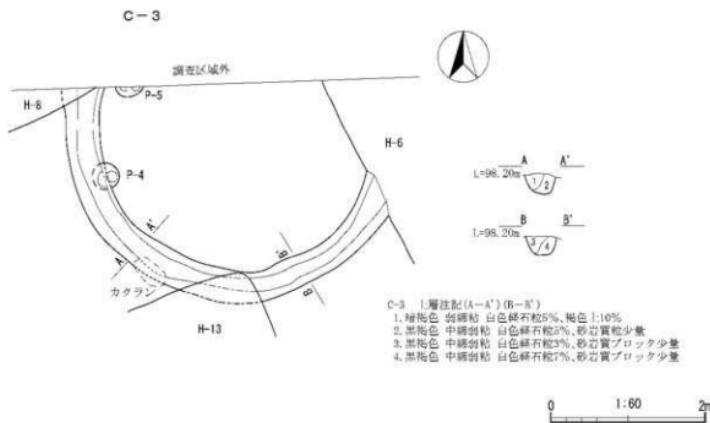
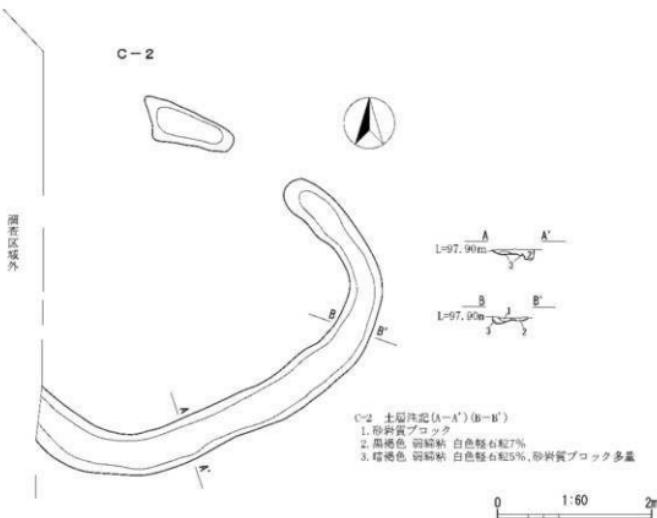


0 1:60 2m

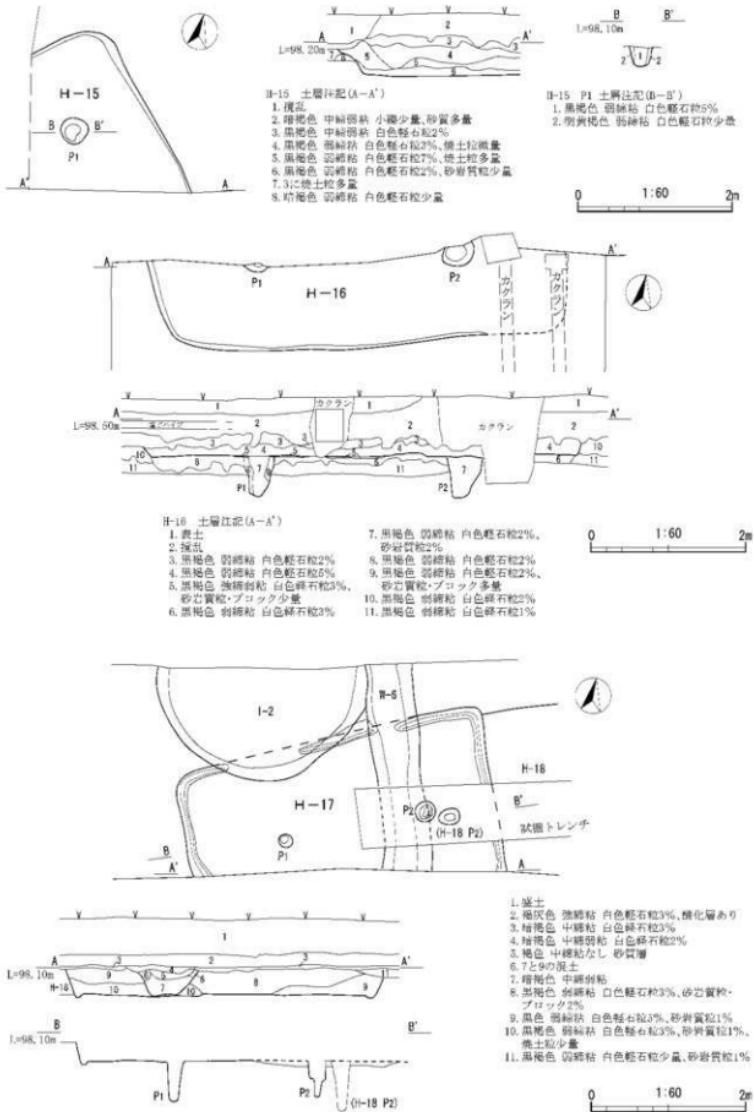
第14図 D-1~7・9号土坑



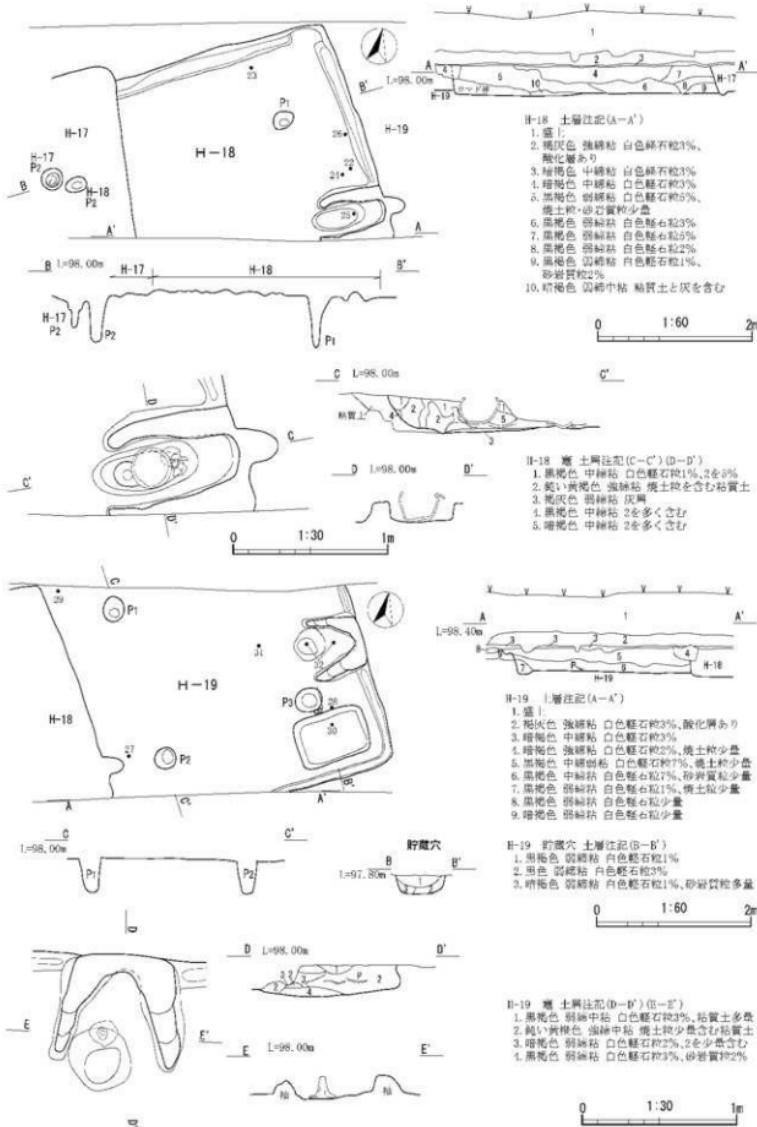
第15図 D-10~13号土坑、P-1~5号ビット、I-1号井戸状造構



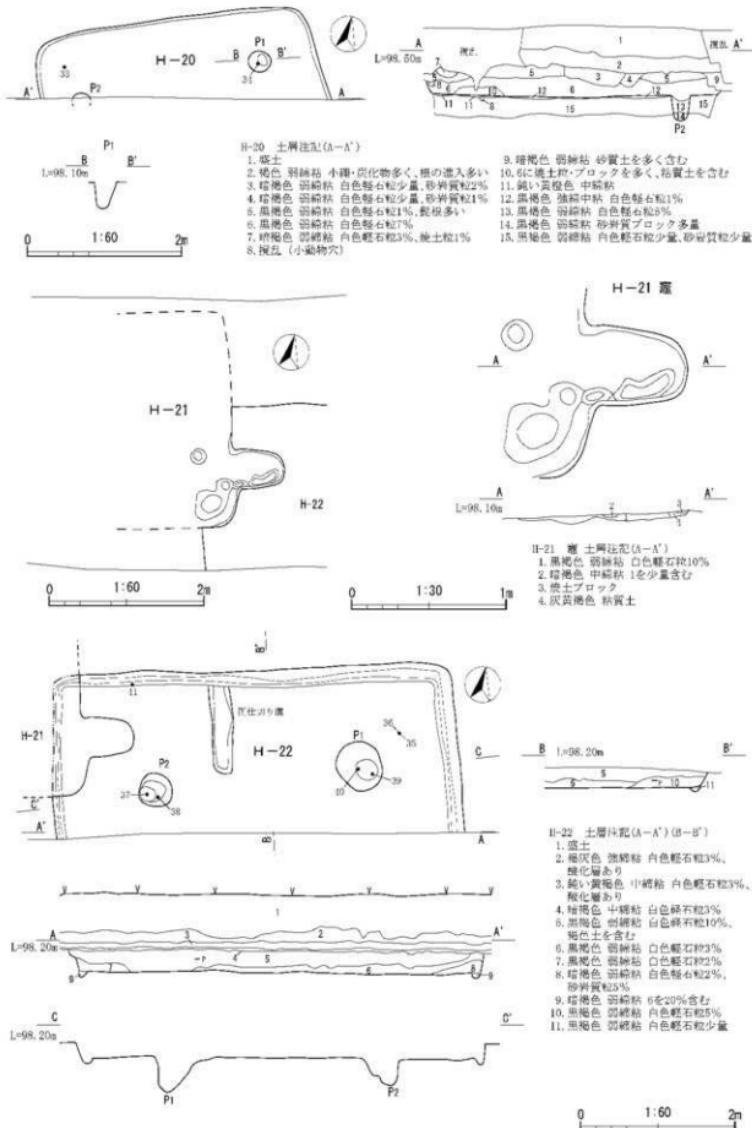
第16図 C-2・3号周溝墓



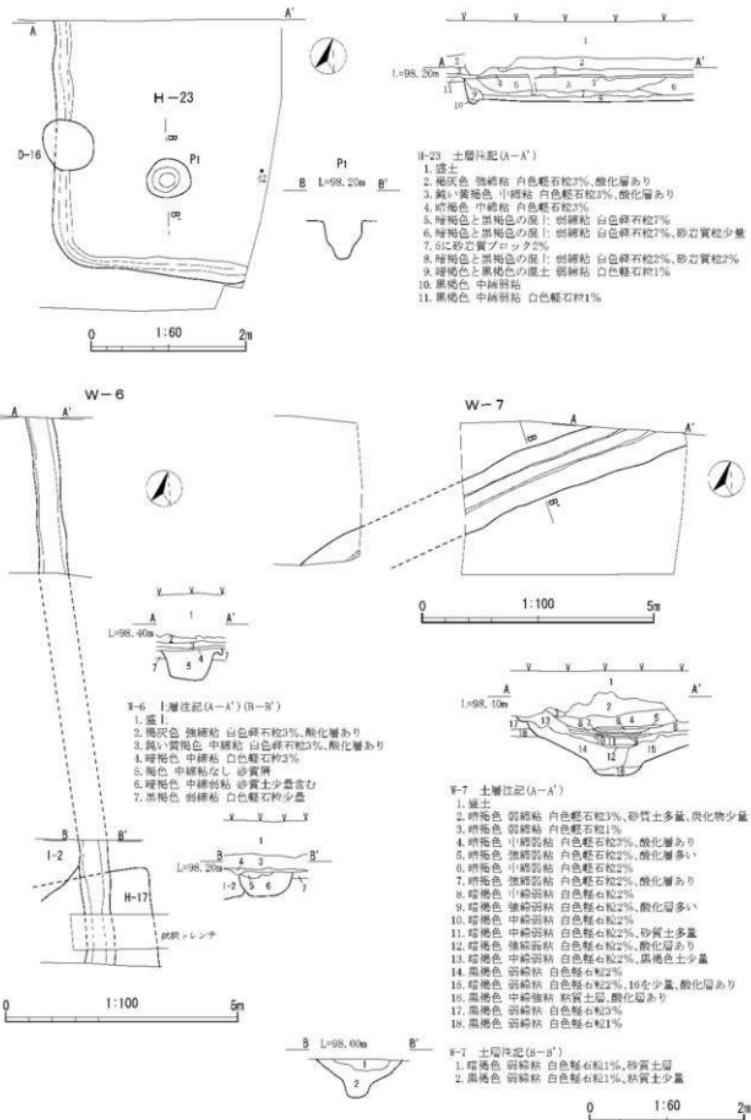
第17図 H-15~17号住居跡

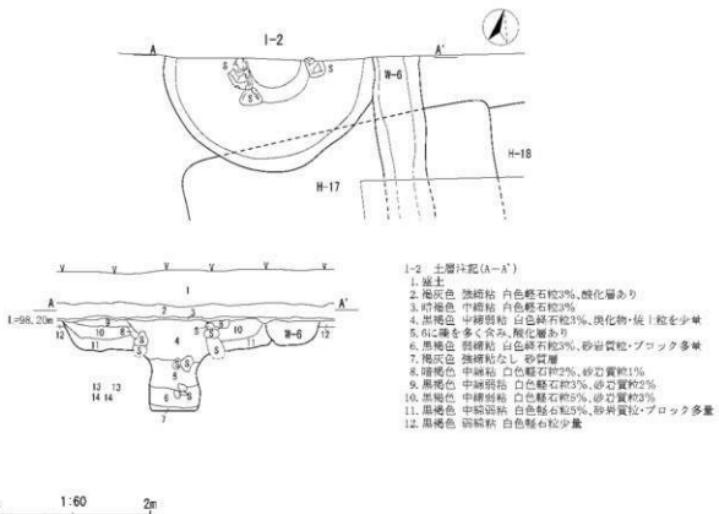
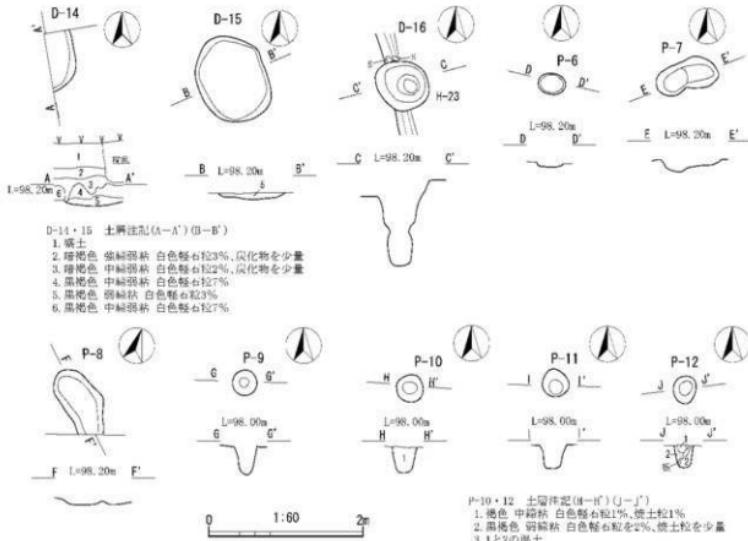


第18図 H-18・19号住居跡

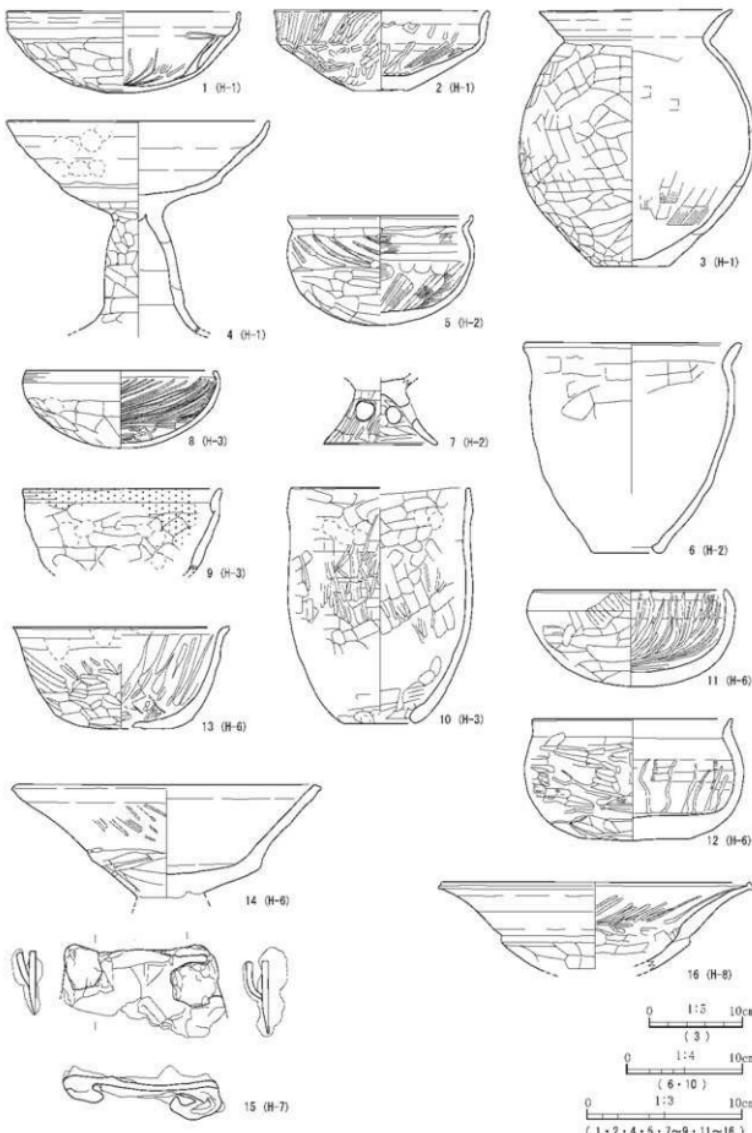


第19図 H-20~22号住居跡

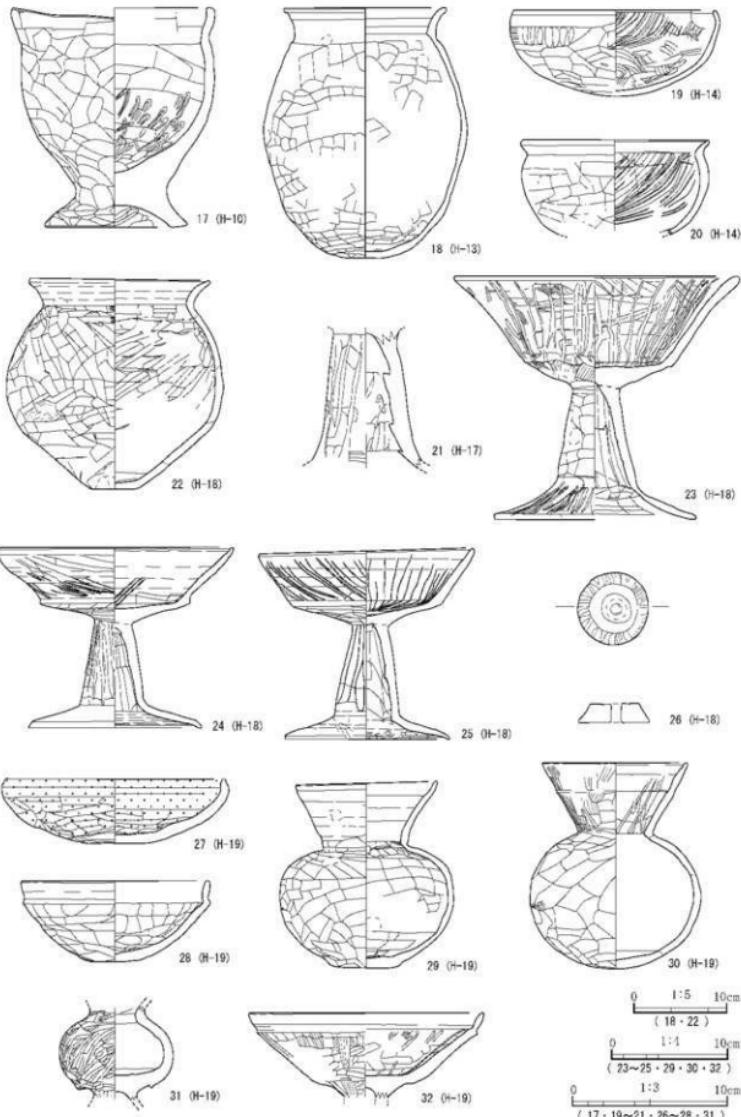




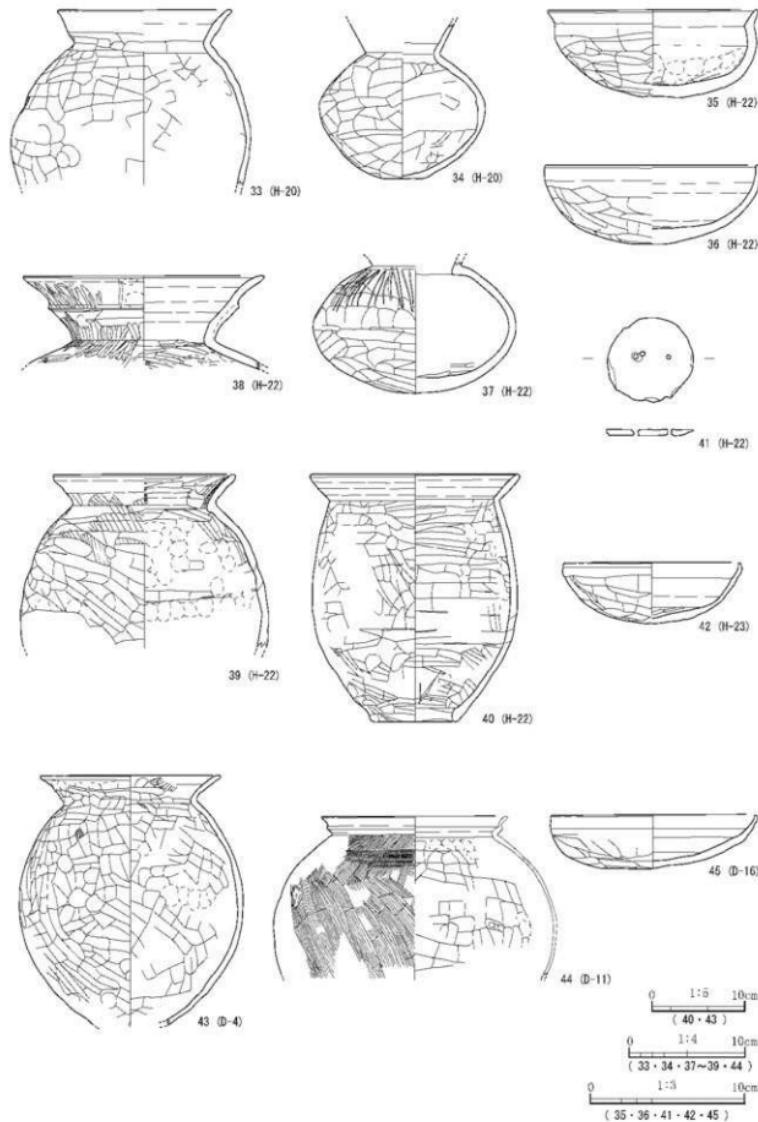
第21図 D-14～16号土坑、P-6～12号ピット、I-2号井戸跡



第22図 H-1~3・6~8号住居跡出土遺物

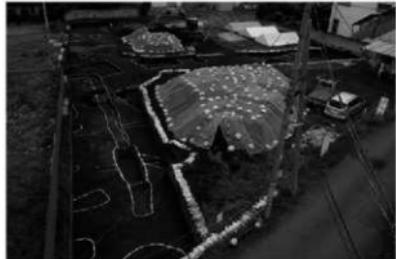


第23図 H-10・13・14・17～19号住居跡出土遺物



第24図 H-20・22・23号住居跡、D-4・11・16号土坑出土遺物

図版 1



A調査区全景（北から）



A調査区全景（西から）



B調査区南側全景（東から）



B調査区北側全景（東から）



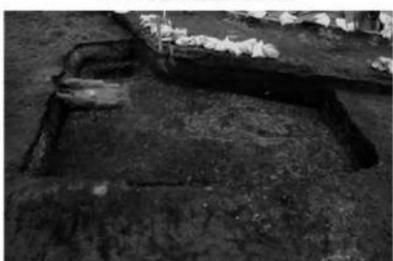
H-1号住居跡全景（南から）



H-2号住居跡全景（西から）



H-2号住居跡掘り方全景（西から）



H-3号住居跡全景（北から）

図版 2



H-3号住居跡掘り方全景（北から）



H-4号住居跡全景（北から）



H-5号住居跡全景（北から）



H-6号住居跡全景（西から）



H-6号住居跡掘り方全景（西から）



H-7号住居跡全景（北から）



H-7号住居跡掘り方全景（北から）



H-8号住居跡全景（西から）

図版3



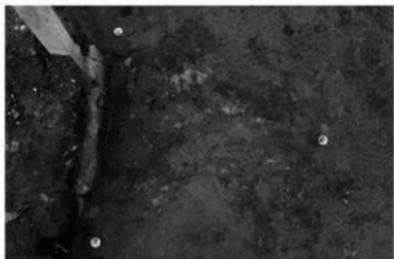
H-9号住居跡全景（西から）



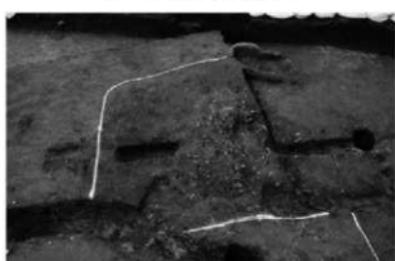
H-10号住居跡全景（北から）



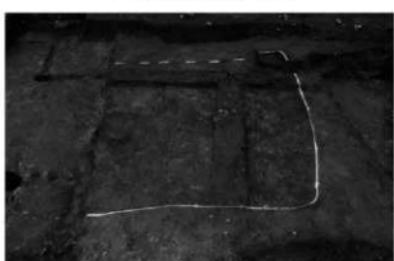
H-11号住居跡全景（東から）



H-12号住居跡全景（南から）



H-13号住居跡全景（北から）



H-14号住居跡全景（東から）



H-15号住居跡全景（西から）



H-16号住居跡全景（東から）

図版 4



H-17号住居跡全景（西から）



H-18号住居跡全景（西から）



H-19号住居跡全景（西から）



H-20号住居跡全景（北から）



H-21号住居跡全景（西から）



H-22号住居跡全景（西から）



H-23号住居跡全景（南から）

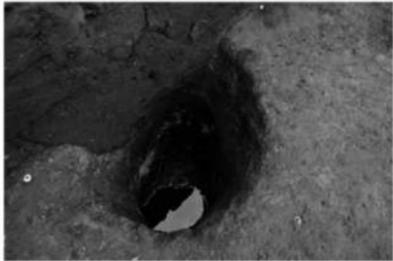


W-1・2号溝跡全景（南から）

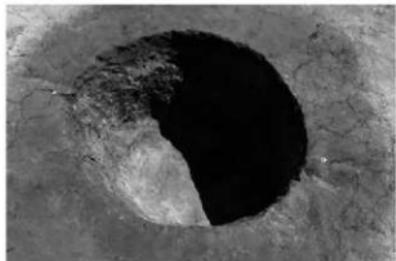
図版 5



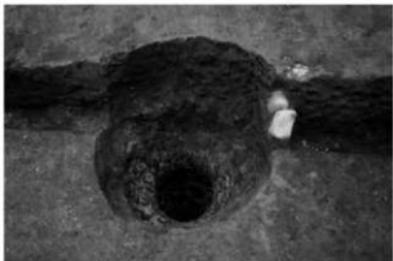
W-7号溝全景 (東から)



D-4号土坑全景 (西から)



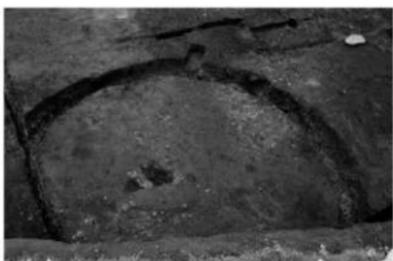
D-11号土坑全景 (西から)



D-16号土坑全景 (東から)



C-2号周溝墓全景 (南から)



C-3号周溝墓全景 (北から)



I-1号井戸状遺構全景 (西から)

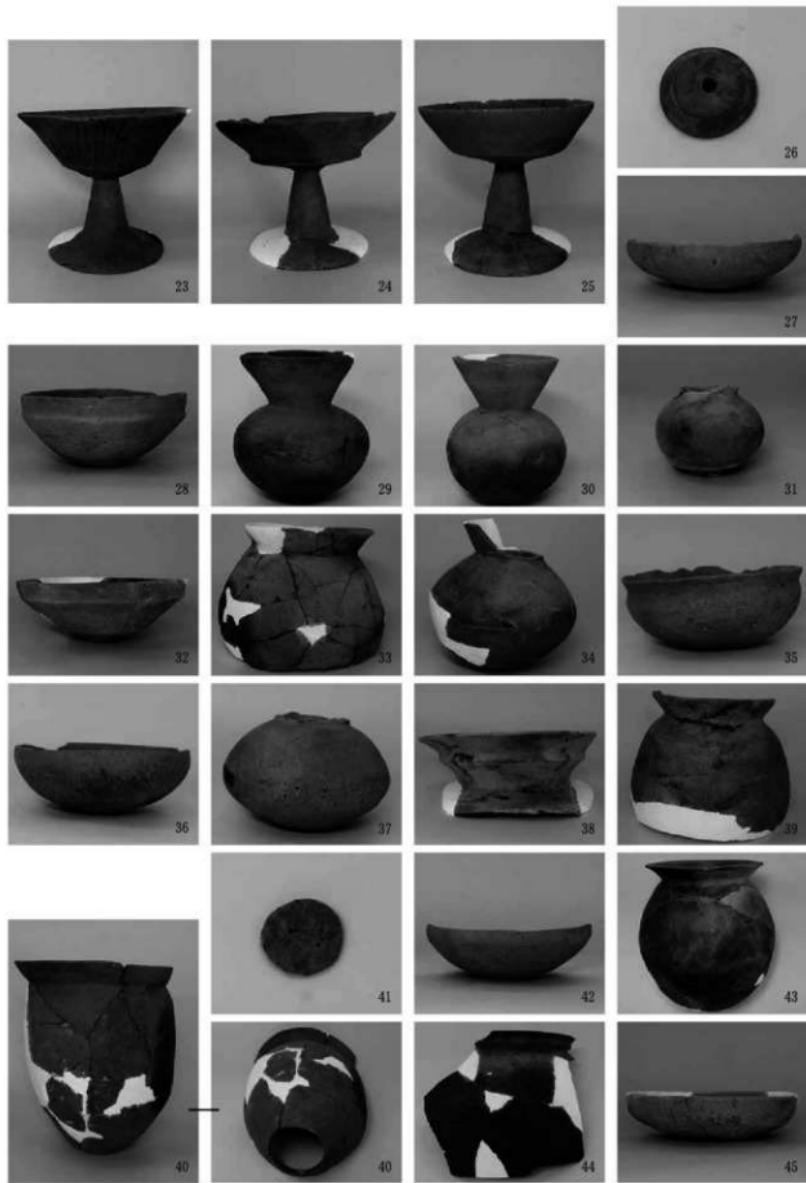


I-2号井戸跡全景 (南から)

図版 6



図版 7



## 抄 錄

フ リ ガ ナ	ロック イセキグン
書 名	六供遺跡群No.6
副 書 名	前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シ リ ー ズ 名	
シ リ ー ズ 番 号	
編 著 者 名	藤坂 和延(前橋市教育委員会 文化財保護課) 権田 友寿(スナガ環境測設株式会社)
編 集 機 関	前橋市教育委員会 文化財保護課
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発 行 年 月 日	西暦2010年12月25日

フ リ ガ ナ 所収遺跡名	フ リ ガ ナ 所 在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
六供遺跡群No.6	前橋市六供町 319番2号ほか (A調査区) 13番2号ほか (B調査区)	10201	22H50	36°22'13"	139°04'37"	20100816 ~ 20101225	670m <sup>2</sup>	前橋都市計 画事業 六供土地区 画整理事業

所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
六供遺跡群No.6	集落跡	古墳時代 中世以降	竪穴住居跡23軒 土坑8基 周溝墓2基 井戸跡1基 溝跡7条 土坑7基、ピット12基 井戸状遺構1基	土師器・紡錘車・鉄 製品・石製品 軟質陶器・石製品	

### 六供遺跡群 No.6

2010年12月20日 印刷  
2010年12月25日 発行

発 行 前橋市教育委員会 文化財保護課  
前橋市三保町二丁目10-2  
編 集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1  
印 刷 朝日印刷工業株式会社